

# アンケート及び村民向けワークショップ結果について

2026/1/30

# 目次

	Page
<b>1 アンケート結果について</b>	<b>2</b>
-基本情報	
-免許、車の所有状況と運転意向	
-移動目的別の実態	
-現状の交通手段に対する村民意見	
-新しい交通手段への期待	
<b>2 村民向けワークショップについて</b>	<b>24</b>
-実施概要	
-実施結果	
-アンケート結果	
<b>3 住民アンケートおよびワークショップ結果総括</b>	<b>31</b>

# 1.アンケート結果に ついて

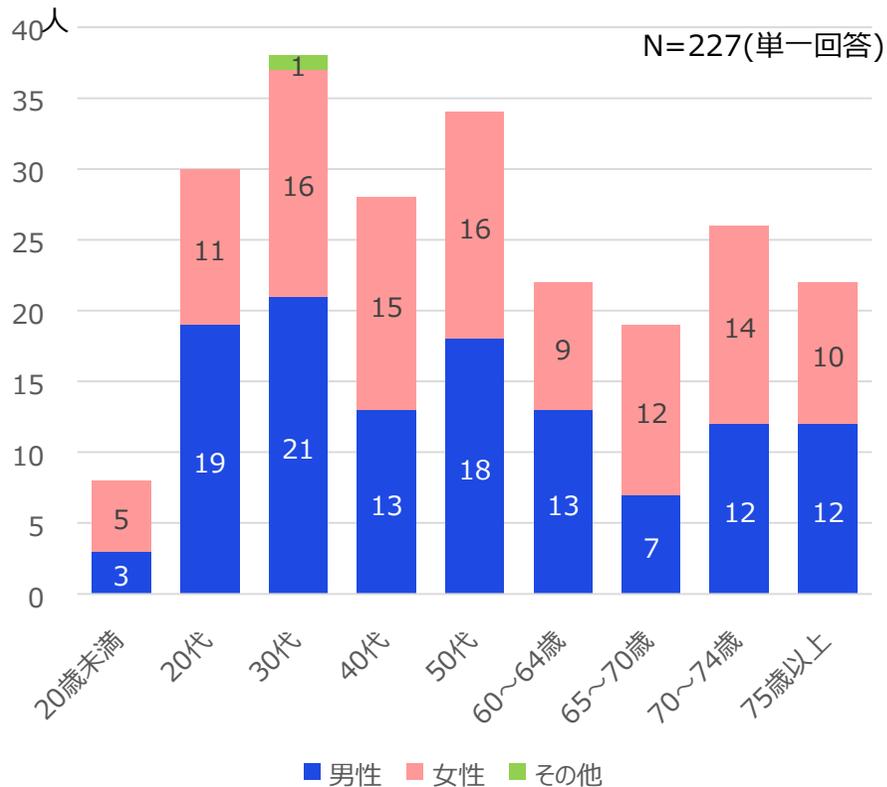
# 基本情報①

令和7年10月25日から12月4日の期間で、東成瀬村の公共交通を利用する村民227名を対象に、交通状況および現在計画中的の交通施策に関する意見を含めた調査を実施しました。

## アンケート調査概要

実施期間	令和7年10月25日～12月4日
実施件数	227件（内訳については右グラフ参照）
補足事項	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 30代から50代を中心に、幅広い年齢層から意見を収集。60代以上について、各年代で20名以上の回答を得ており、有効なサンプル数と判断</li><li>■ 20歳未満は8名と少数のため、アンケート結果では参考情報とする</li></ul>

## 回答者の年齢と性別割合

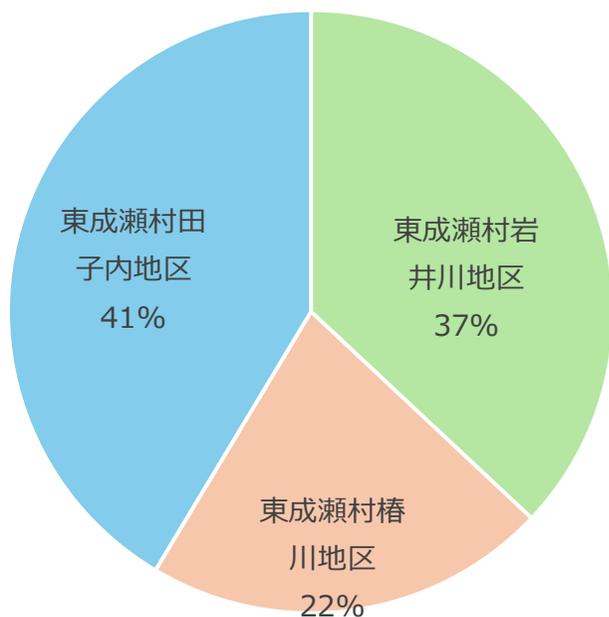


## 基本情報②

回答者の居住地分布では、田子内地区の居住者割合が最も多く、次いで岩井川地区、その次に椿川地区の居住者割合が多くなっています。40代、および65歳以上では半数以上が岩井川地区の方でした。

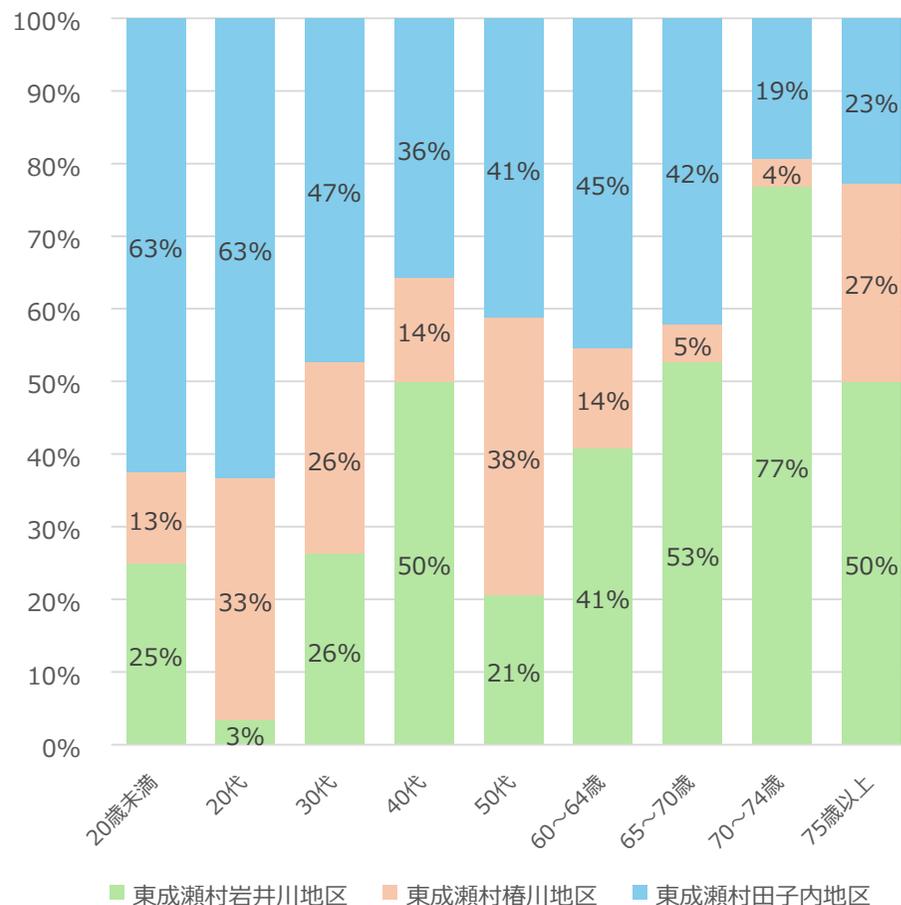
回答者居住地分布（全体）

N=227(単一回答)



回答者居住地分布（年代別）

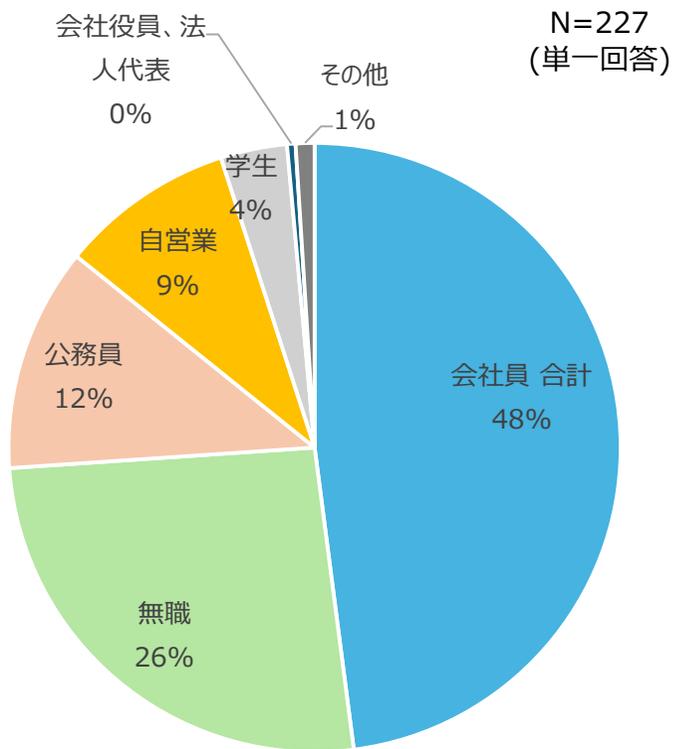
N=227(単一回答)



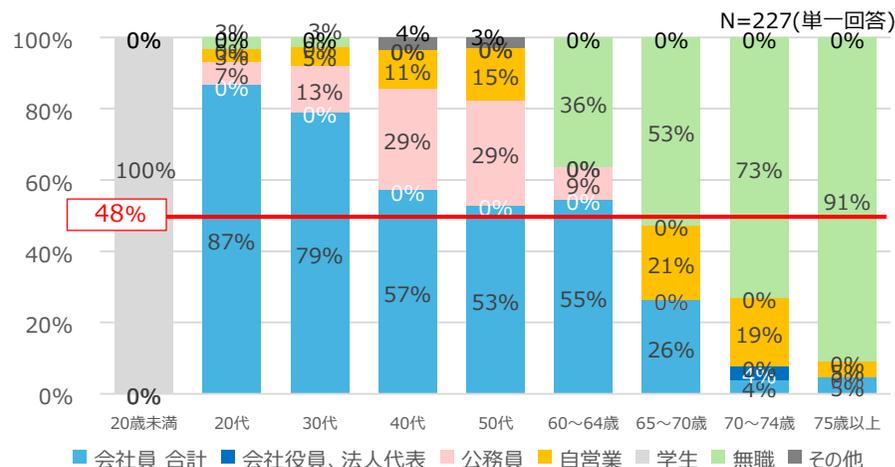
# 基本情報③

約7割が就労者、特に会社員は全体の半数であり、無職の割合は全体の26%であることがわかりました。また、20代～64歳では半数以上が会社員で、特に20代から50代の9割以上が就労者であり、定年の年代となる60歳以上から無職が増え、75歳以上では9割以上になっていました。また、20歳～64歳の会社員の内、半数以上は東成瀬村内で勤務しています。

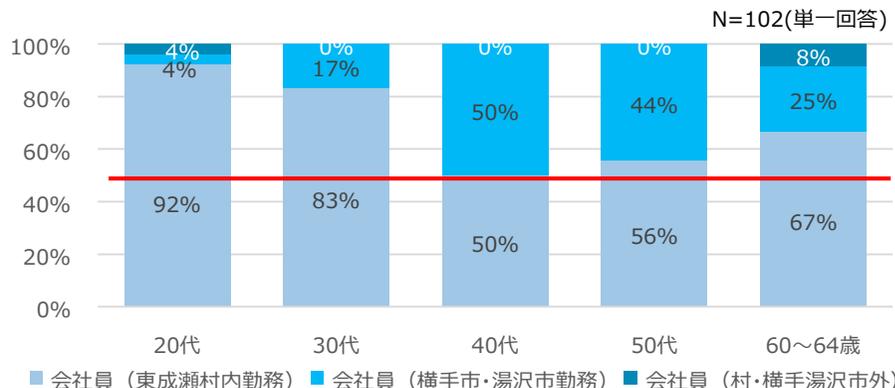
回答者職業分布（全体）



回答者職業分布（年代別）



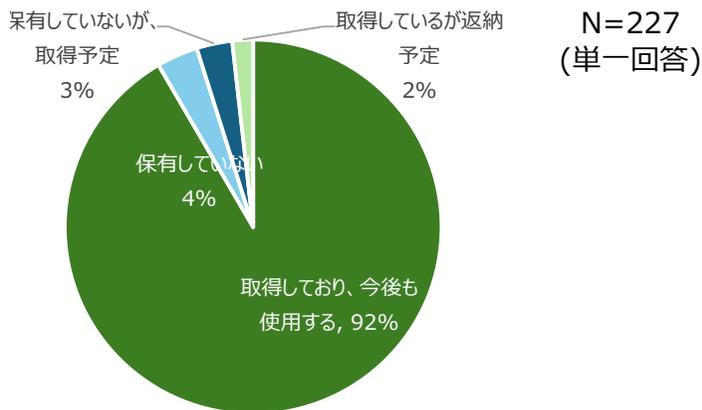
会社員内訳



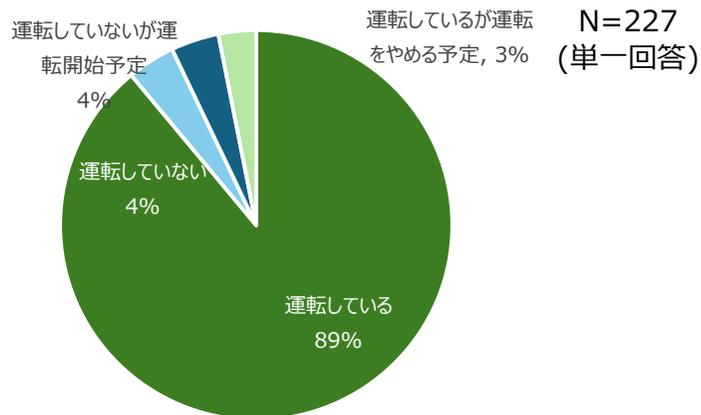
# 免許、車の所有状況と運転意向①

約9割で免許を保有し運転を継続する意向がみられました。20代から70歳にかけて、全員が運転免許を保有している一方、70歳以上では免許の保有無し、返納意図が増加しており、運転意向についても運転をしていない、または運転をやめる割合が増加していました。この結果から、70歳以上の車以外の移動手段需要があると考えられます。

免許保有状況 (全体)



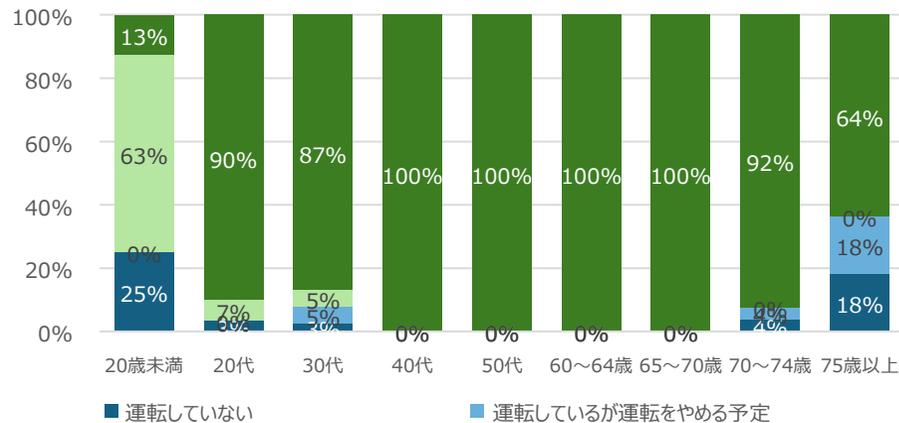
運転意向 (全体)



免許保有状況 (年代別)



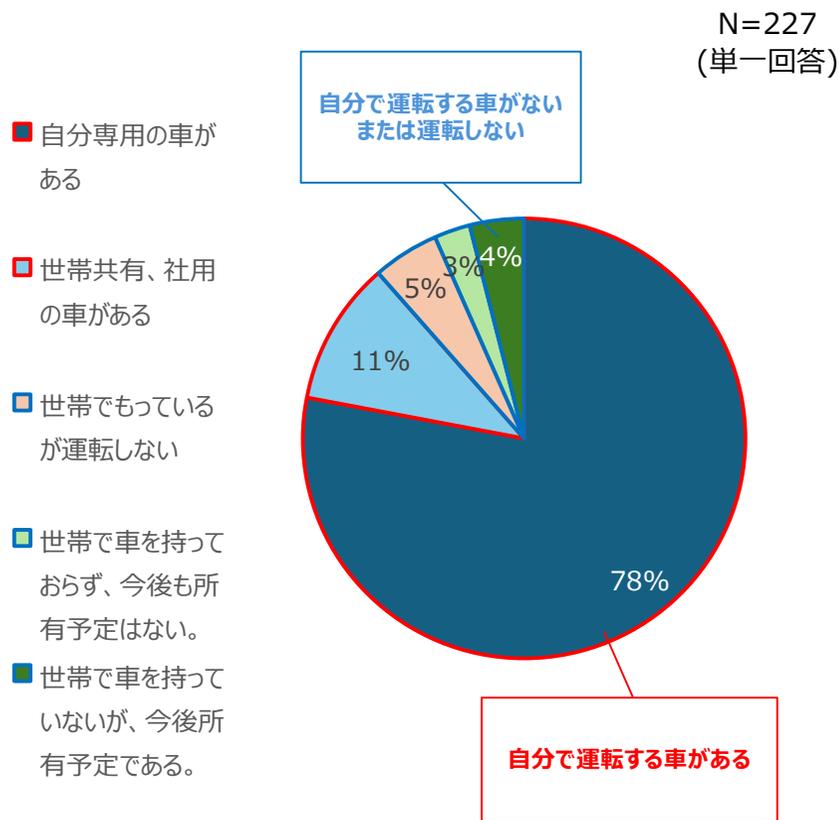
運転意向 (年代別)



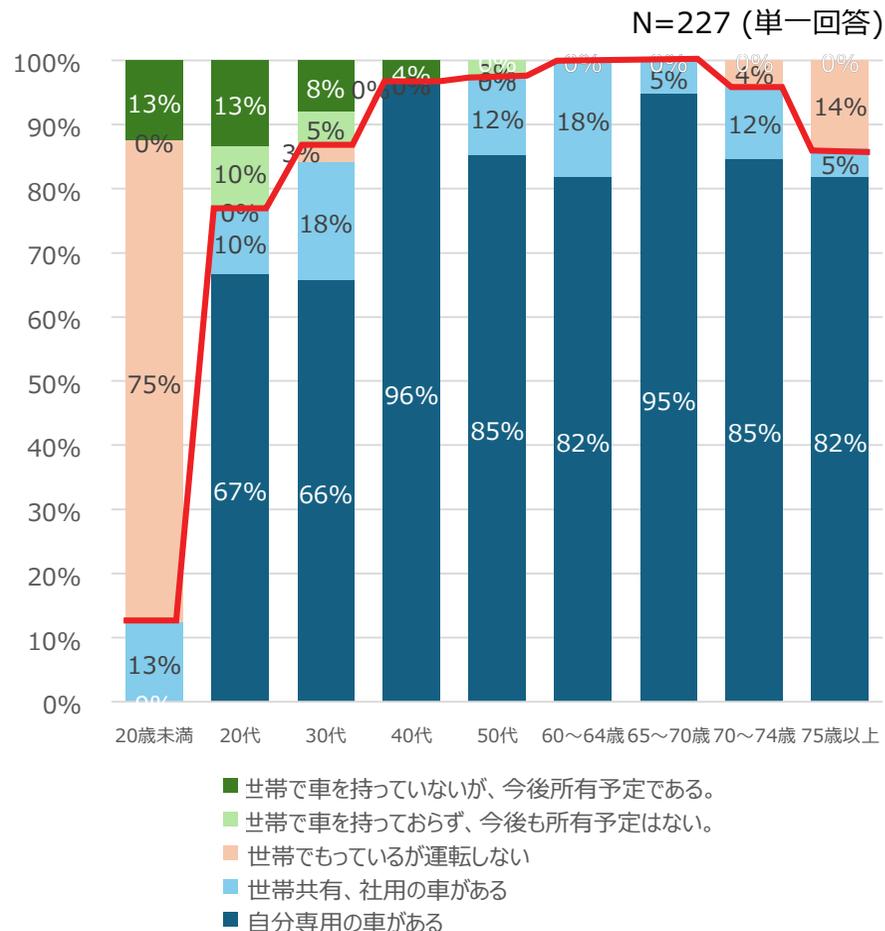
## 免許、車の所有状況と運転意向②

全体の内、約9割が自分で運転する車を保有しており、反対に残りの1割が自分で運転する車を保有していません。20代以上で7割以上、特に、60代から70歳については全員の回答者が、自分で運転する車を保有している一方で、20歳未満から30代まで、75歳以上の年齢層では1割以上が自分で運転する車を保有していません。

車保有状況（全体）



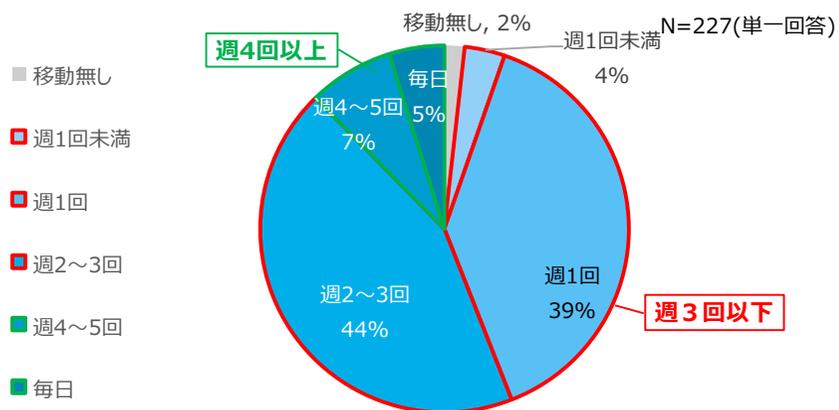
車保有状況（年代別）



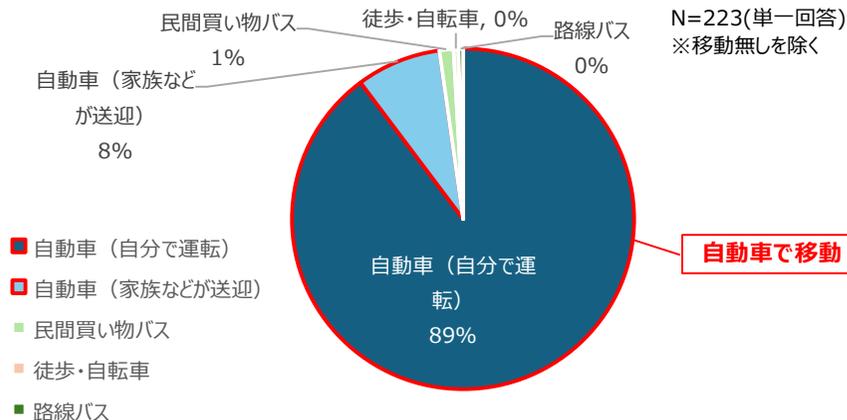
# 移動目的別の実態（買い物①）

買い物頻度について、全体の86%は週3回以下であり、20代～30代、60～64歳、70～74歳で、86%以上が買い物頻度週3回以下でした。買い物の移動手段では、自動車が9割以上、70歳～74歳の内4%は徒歩又は自転車、75歳以上では約14%が民間買い物バス、20代では路線バスの利用が見受けられます。村の移動支援サービスの回答はありませんが、40代～90代まで32名の方が利用登録されています。（R7年3月末時点）

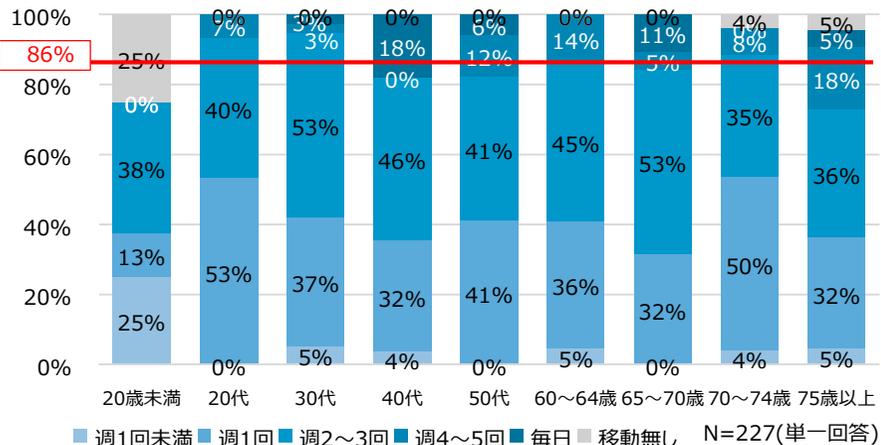
買い物頻度（全体）



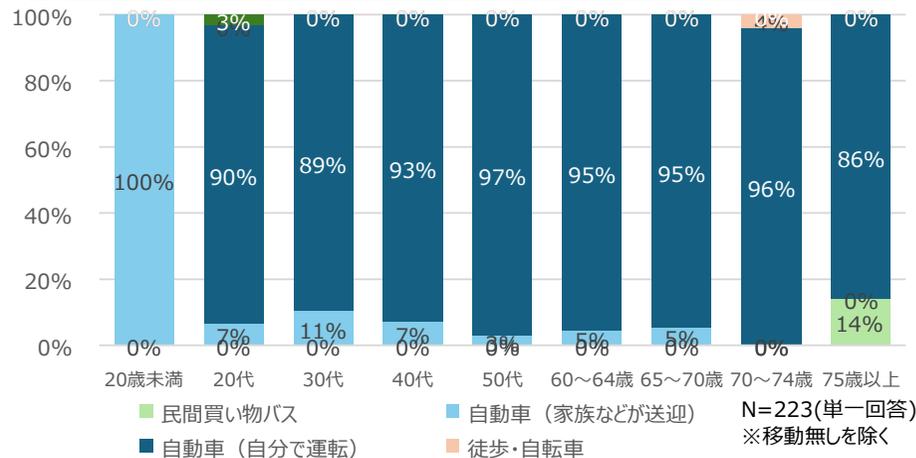
買い物移動手段（全体）



買い物頻度（年代別）



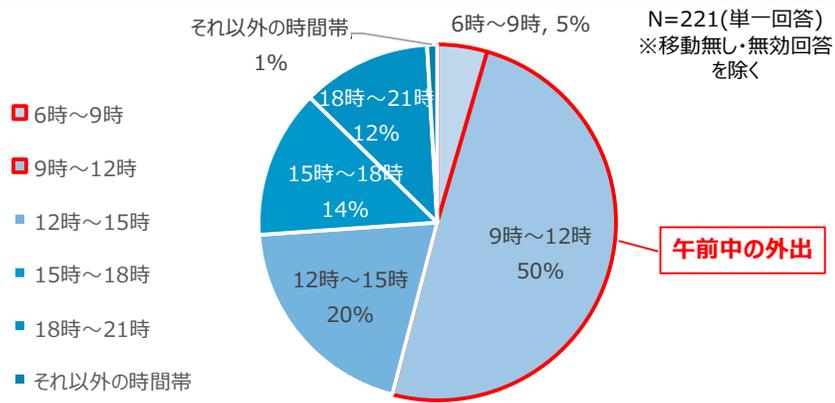
買い物移動手段（年代別）



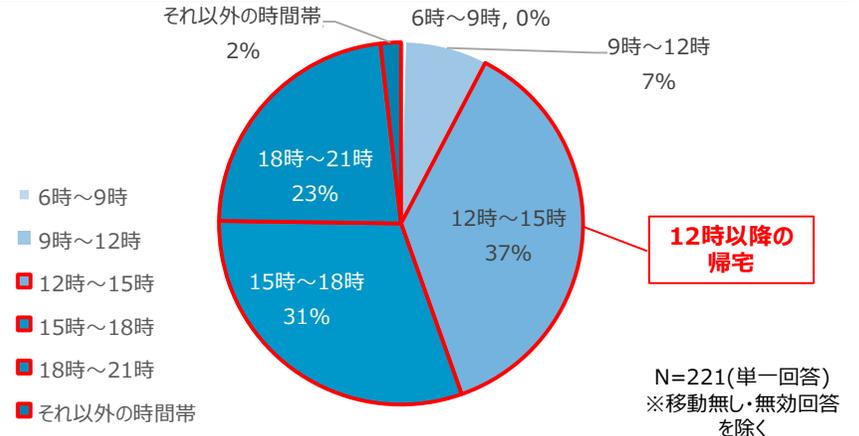
# 移動目的別の実態（買い物②）

買い物の出発時間について、約半数は午前中（内50%は9時～12時）、70歳以上は約7割が午前中となっています。帰宅時間については、約9割は12時以降、約4割が12時～15時となっており、65歳以上では7割以上が15時までに帰宅しています。

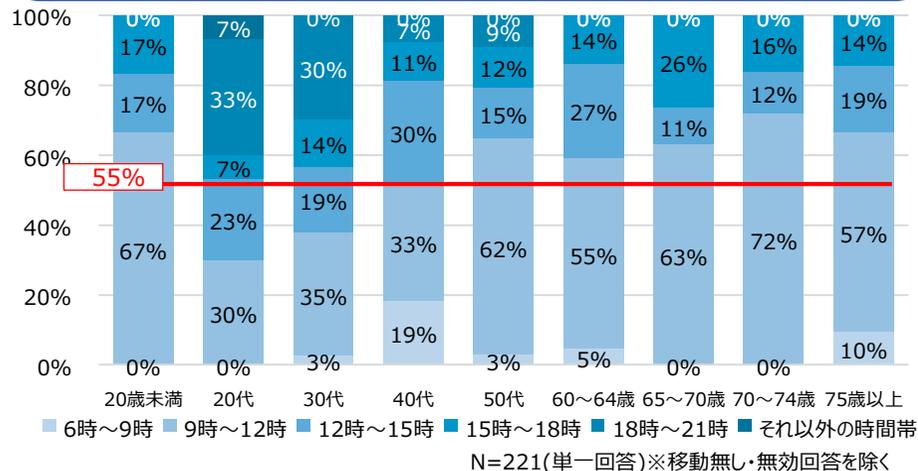
買い物出発時間（全体）



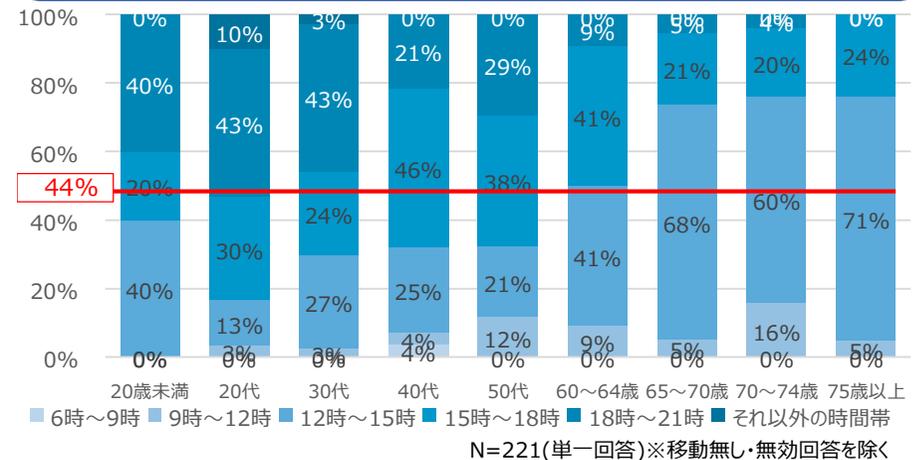
買い物帰宅時間（全体）



買い物出発時間（年代別）



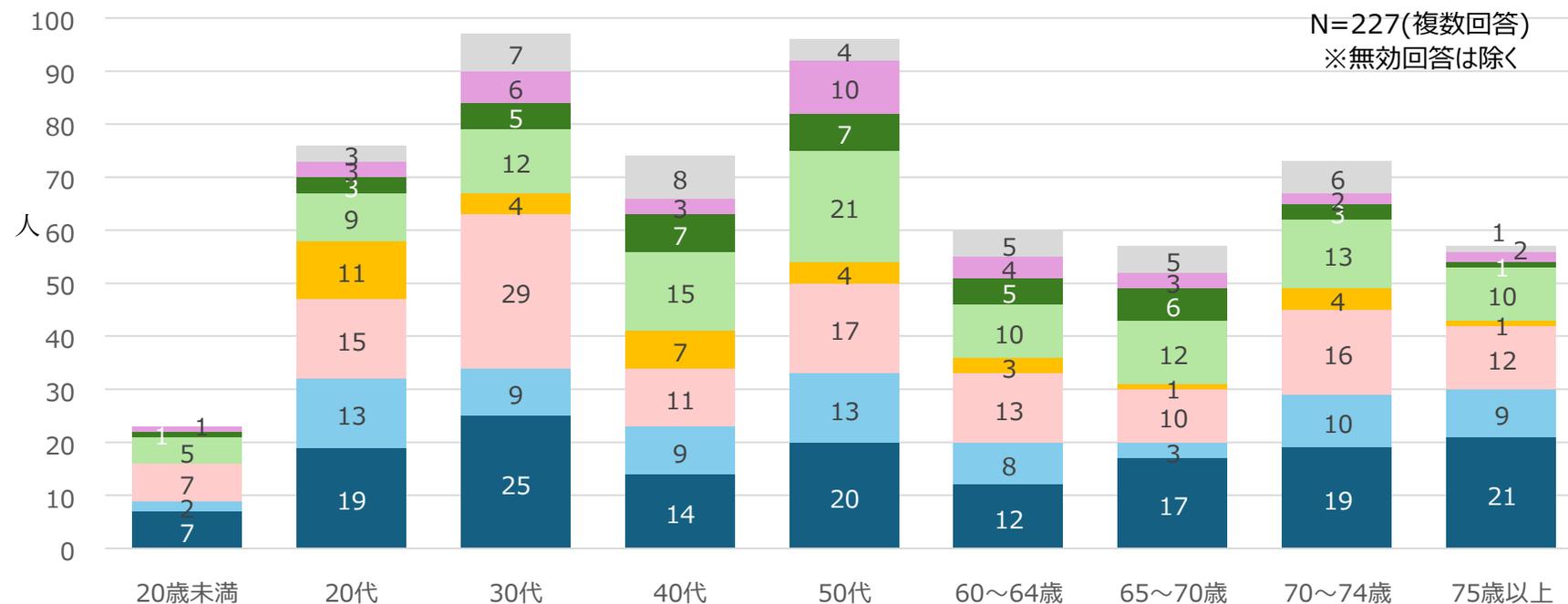
買い物帰宅時間（年代別）



# 移動目的別の実態（買い物③）

買い物場所については、各年代で著しい差は見られませんが、30代の年齢層でマックスバリュ（十文字）の利用者が多い傾向が見受けられます。

買い物目的地



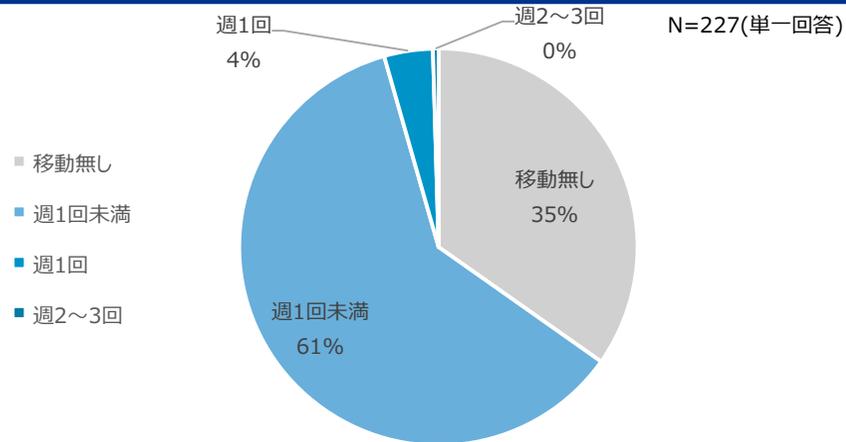
- スーパーモールラッキー (十文字)
- グランマート (十文字)
- マックスバリュ (十文字)
- 薬王堂 (十文字)
- 薬王堂 (増田)
- イオン横手店 (横手)
- イオンスーパーセンター横手南店 (横手)
- その他

その他 (買い物場所)	
デリー (東成瀬)	スターバックス (横手)
バザール (湯沢)	マクドナルド (横手)
よねや千石大橋店 (湯沢)	スーパー (横手)
ピフレ (湯沢)	ツルハドラッグ (増田)
コメリ (湯沢)	ピフレ (稲川)
サンドラッグ (湯沢)	マックスバリュ (西馬音内)
薬王堂 (湯沢)	トラスト (雄物川)
イオンスーパーセンター (湯沢)	イオンモール (大曲)
スーパー (湯沢)	横手・湯沢駅周辺飲食店
イオンモール (横手)	飲食店
バザール (横手)	生協
ドン・キホーテ (横手)	ツルハドラッグ
カフェ (横手)	湯沢
コメダ珈琲 (横手)	谷尾さんのお店

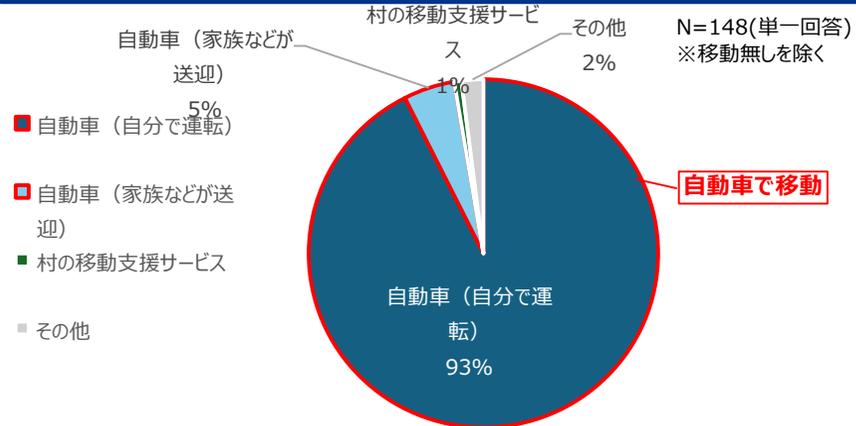
# 移動目的別の実態（通院①）

通院頻度の全体分布をみると、全体の35%が「移動無し」、つまり通院しておらず、残りの通院されている方の9割以上（全体の61%）は週1回未満でした。移動手段では、自動車が9割以上、20代以下と40～70歳は全員が自動車を利用していました。75歳以上では少数の方が村の移動支援サービスを利用と回答されていますが、40代～90代まで38名の方が利用登録されています。（R7年3月末時点）

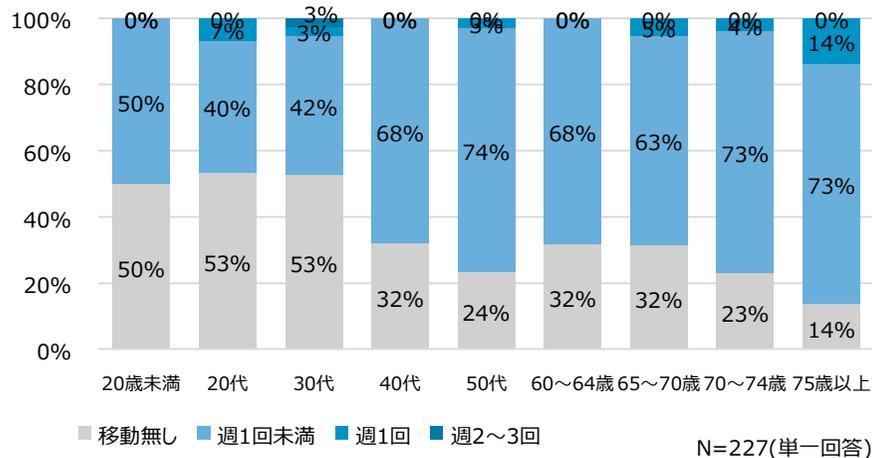
通院頻度（全体）



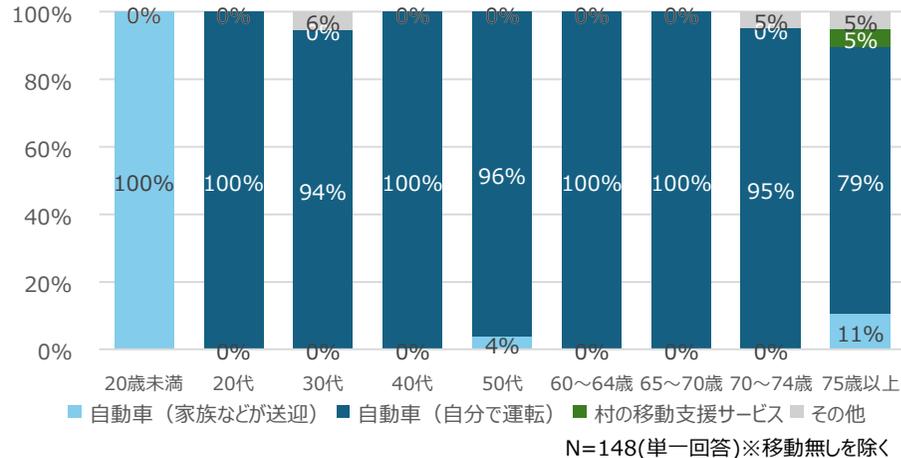
通院移動手段（全体）



通院頻度（年代別）



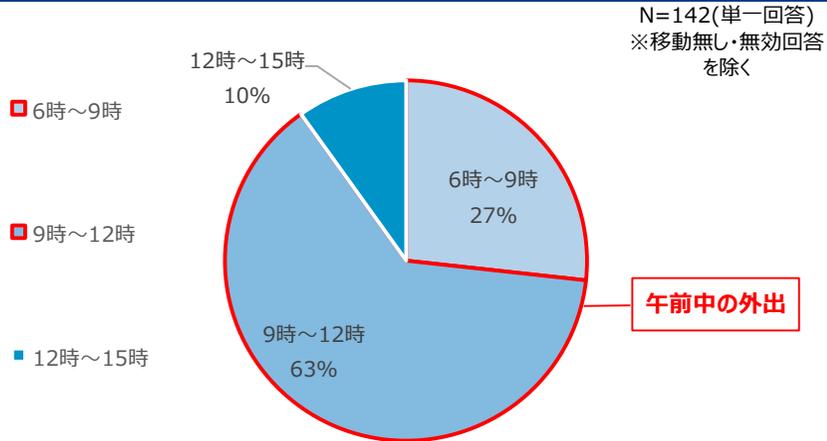
通院移動手段（年代別）



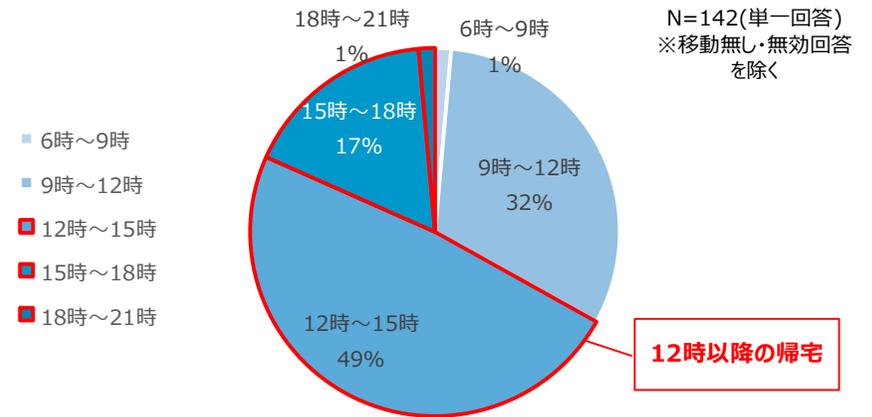
# 移動目的別の実態（通院②）

通院出発時間について、約9割は午前中（内約6割は9時～12時）であり、65歳以上では全員が午前中となっています。通院帰宅時間について、約7割は12時以降（内半数は12時～15時）となっており、20～40代では18時時以降の帰宅も5～13%います。

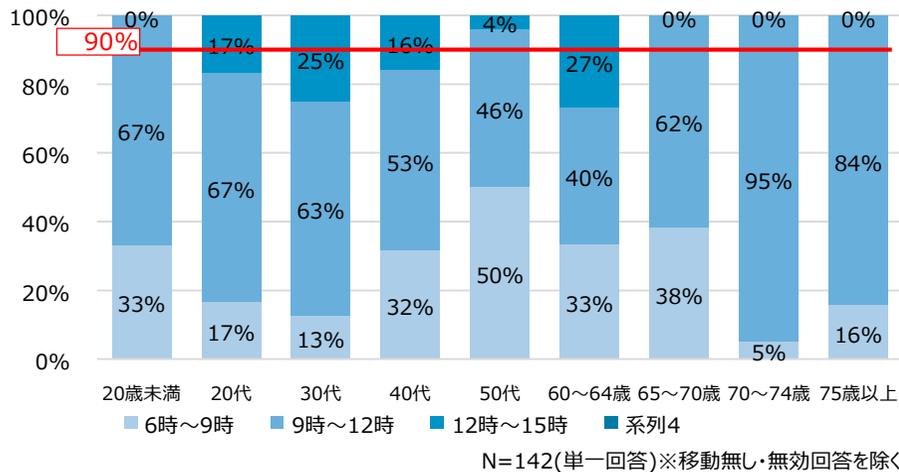
通院出発時間（全体）



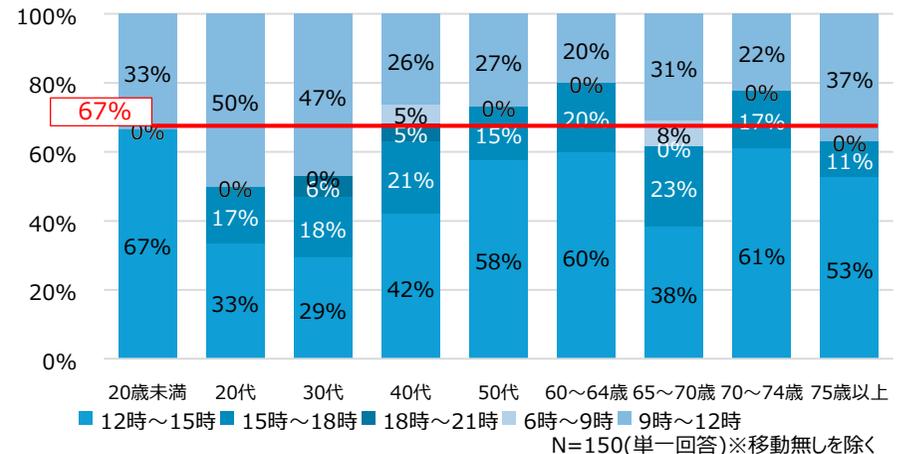
通院帰宅時間（全体）



通院出発時間（年代別）



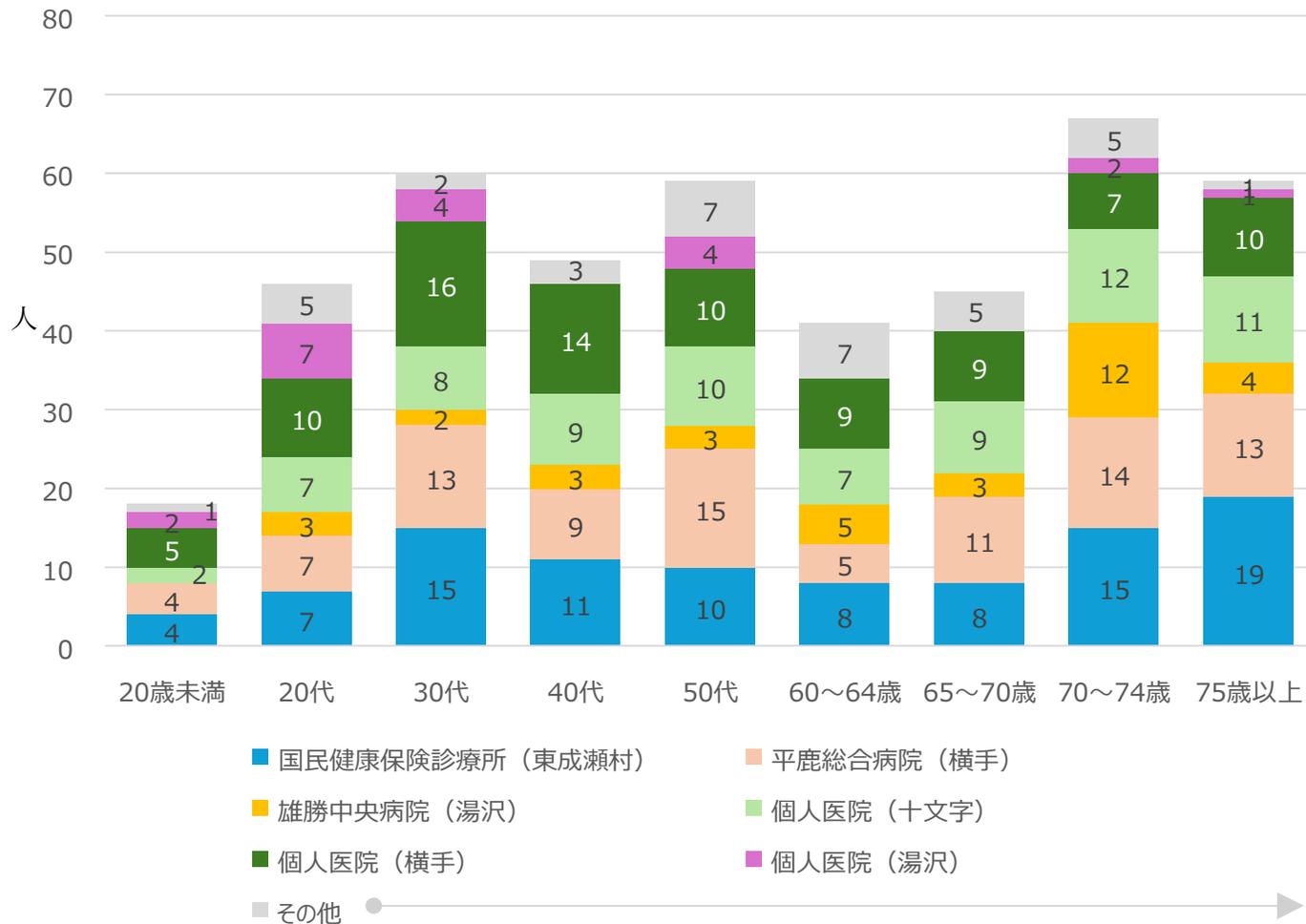
通院帰宅時間（年代別）



# 移動目的別の実態（通院③）

通院病院場所については、著しい年代差は認められません。30代、70歳以上の年齢層で東成瀬村の国民健康保険診療所へ通院する方が若干多い傾向が見受けられます。

通院目的地



N=227(複数回答)

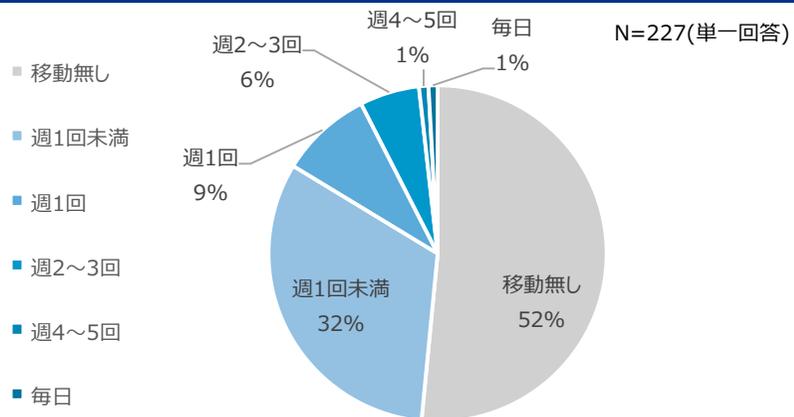
※無効回答は除く

その他 (通院場所)
歯科医院 (増田)
下田内科消化器科医院 (増田)
個人病院 (増田)
市立病院 (横手)
個人病院 (横手)
歯科医院 (湯沢)
個人病院 (大曲)
中通総合病院 (秋田市)
個人医院 (秋田市)
秋田大学病院 (秋田市)
秋田市の病院
盛岡の病院
仙台医療センター

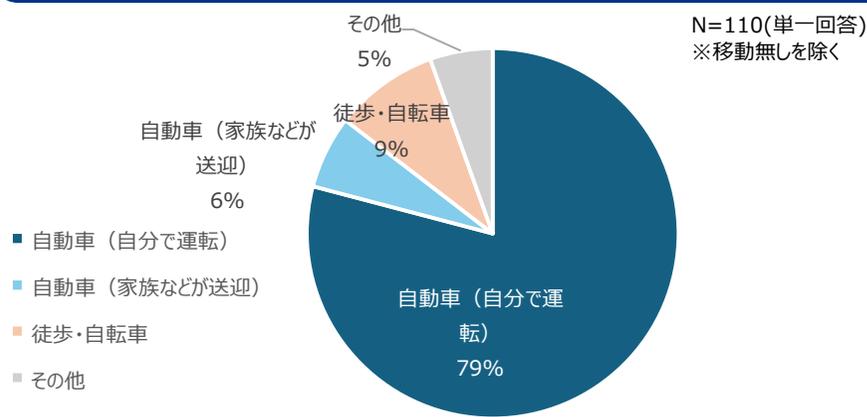
# 移動目的別の実態（コミュニティ参加①）

コミュニティ参加頻度について、全体の約半数は参加していない一方で、65歳以上では約2～3割が週1回以上参加されています。また、コミュニティ参加移動手段について、85%は自動車、9%が徒歩・自転車で移動しています。このことから、買い物や通院と比較して、村内の身近な拠点への移動では自動車を使わない方が一定数いることがわかります。60～64歳以外では徒歩や自転車で移動する人も一部にみられました。

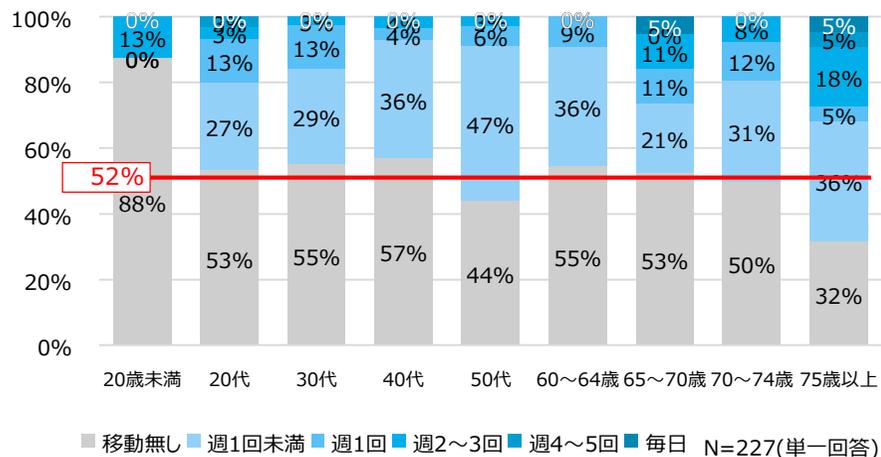
コミュニティ参加頻度（全体）



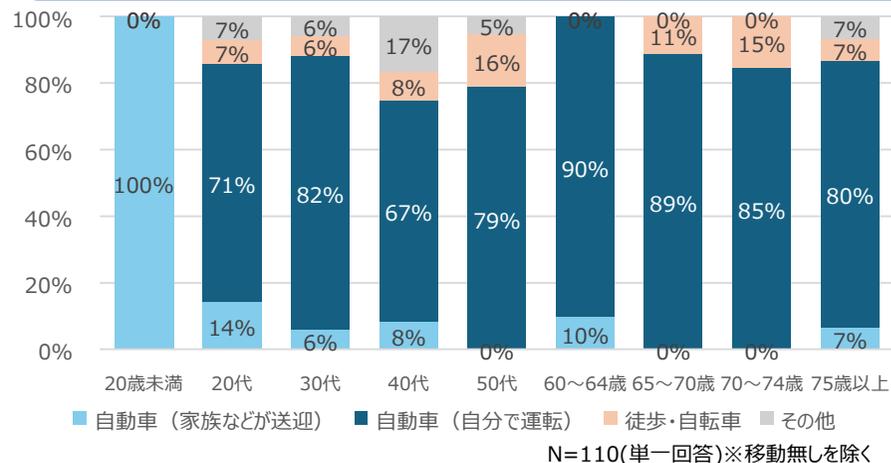
コミュニティ参加移動手段（全体）



コミュニティ参加頻度（年代別）



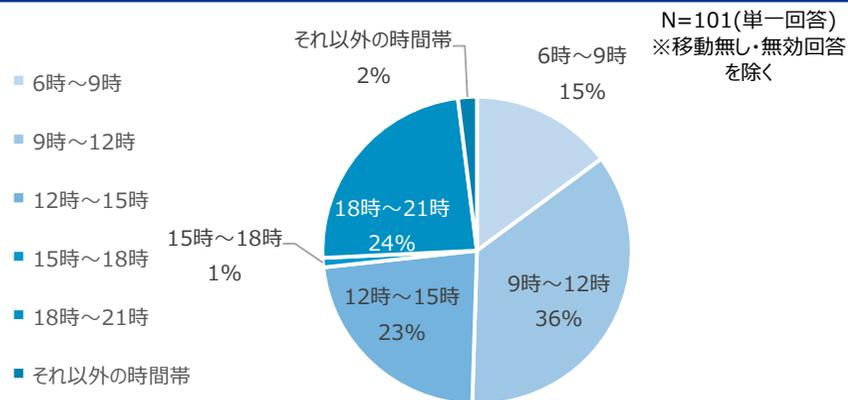
コミュニティ参加移動手段（年代別）



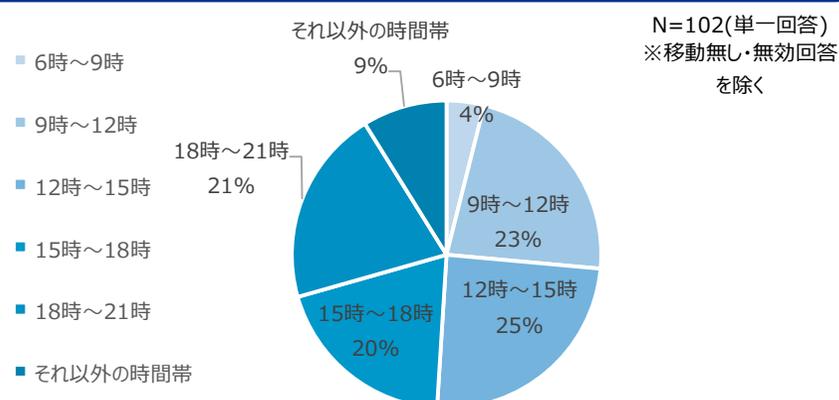
# 移動目的別の実態（コミュニティ参加②）

コミュニティ参加出発時間について、6時～15時、および18時～21時で97%を占めており、9時～12時が3分の1以上を占めており、年代別ではばらつきがありました。コミュニティ参加帰宅時間については、8割以上が9時～21時で均等に分かれた時間帯で、年代別ではばらつきがありました。このことから、それぞれ異なる目的での参加となっていることが想定されます。

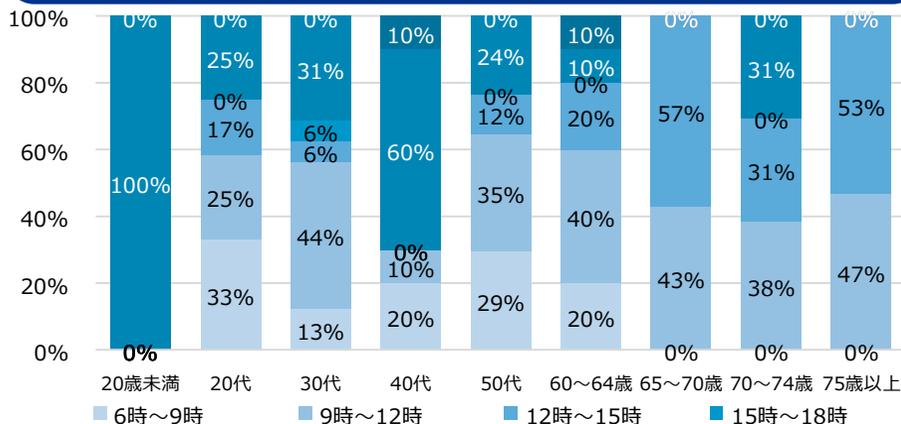
コミュニティ参加出発時間（全体）



コミュニティ参加帰宅時間（全体）

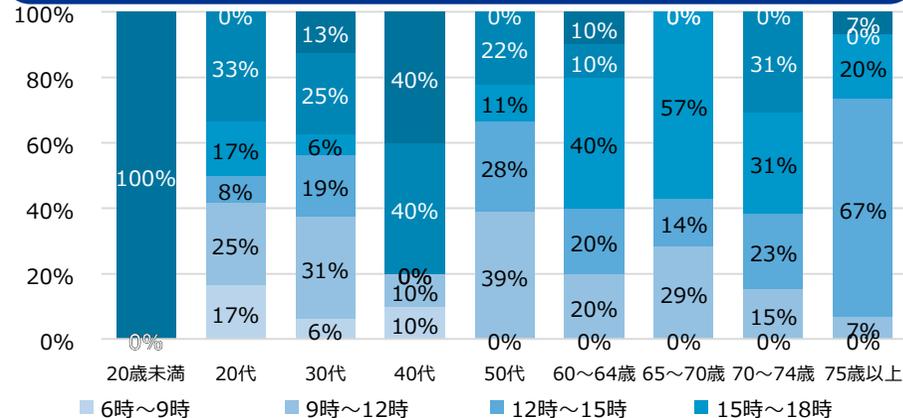


コミュニティ参加出発時間（年代別）



N=101(単一回答)※移動無し・無効回答を除く

コミュニティ参加帰宅時間（年代別）



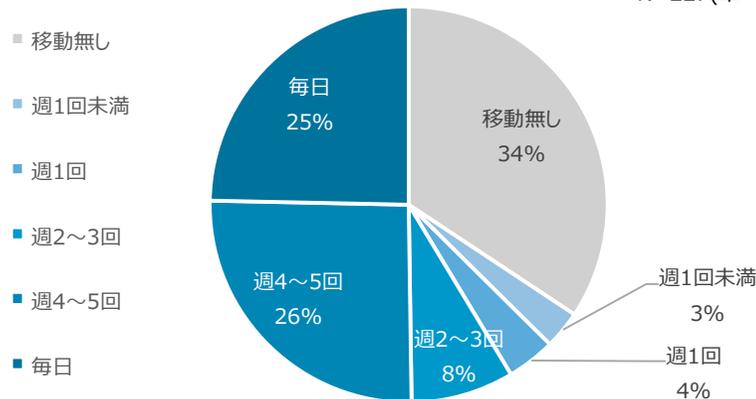
N=102(単一回答)※移動無し・無効回答を除く

# 移動目的別の実態（通勤・通学①）

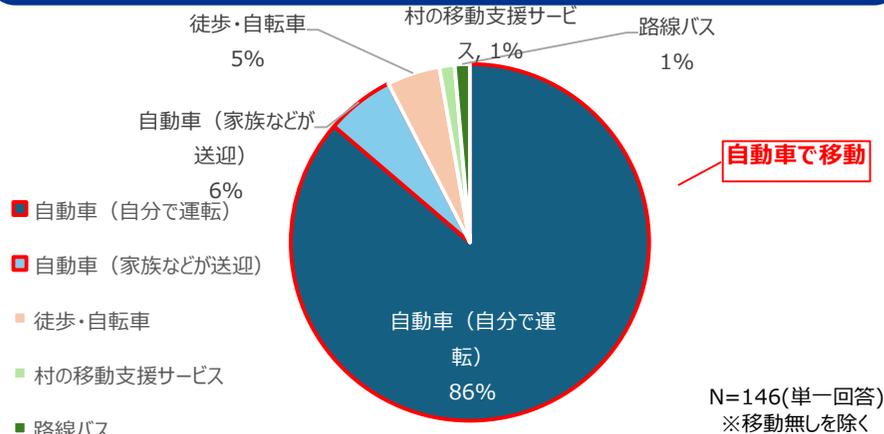
通勤・通学頻度について、全体の約半数が毎日または週4～5回であり、65歳以上は少なくなる傾向がありました。また、通勤・通学の移動手段について、自動車移動が9割以上、20代～70歳では徒歩や自転車移動する人も3%～10%みられることから、村内の近所へ通勤される方が一定数いることが推測されます。

通勤・通学頻度（全体）

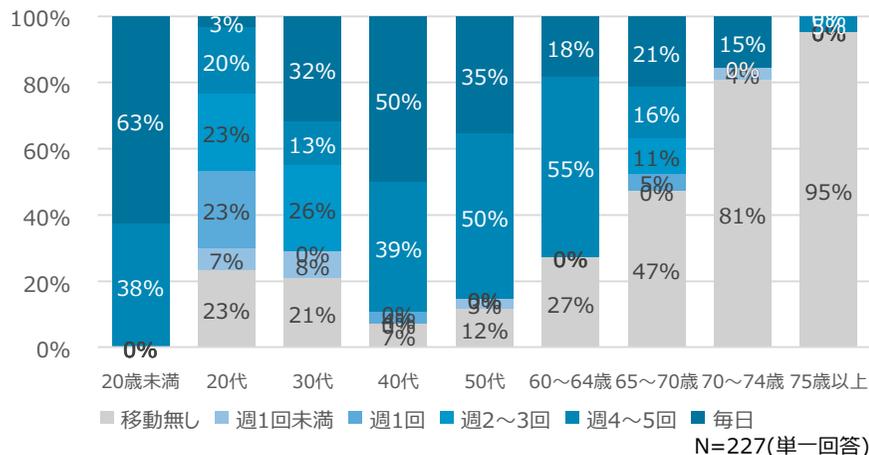
N=227(単一回答)



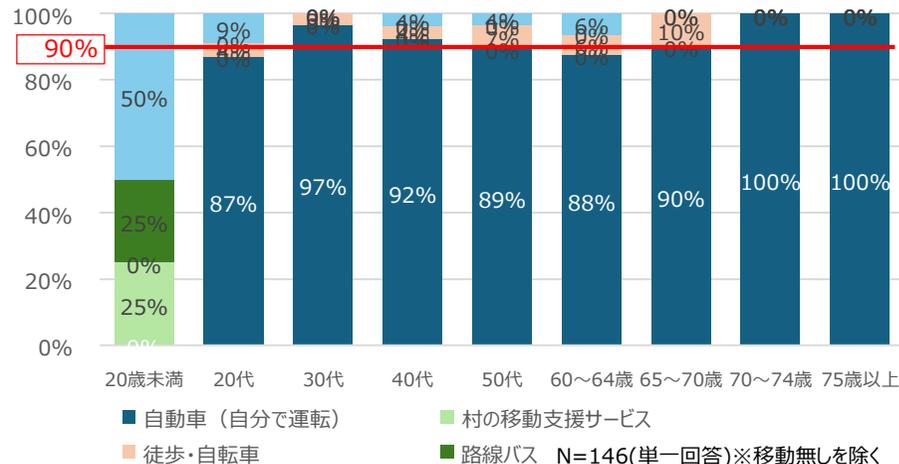
通勤・通学移動手段（全体）



通勤・通学頻度（年代別）

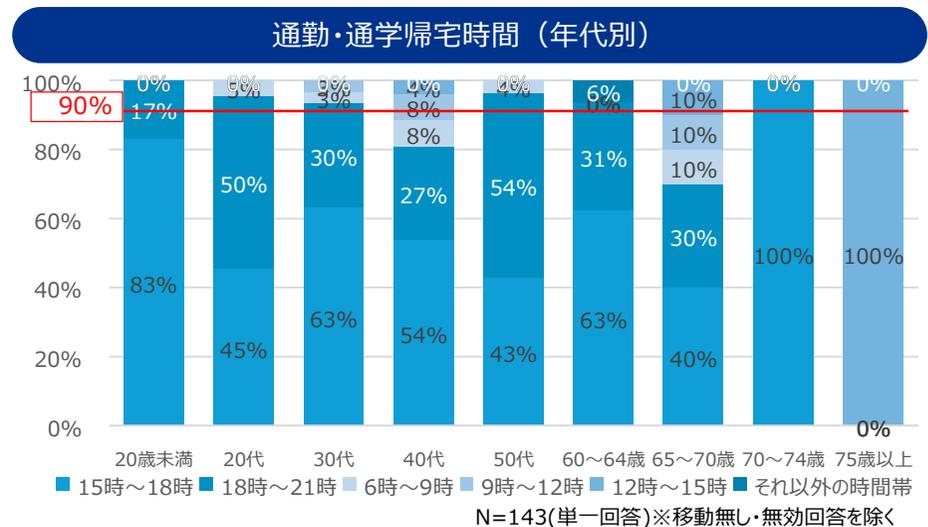
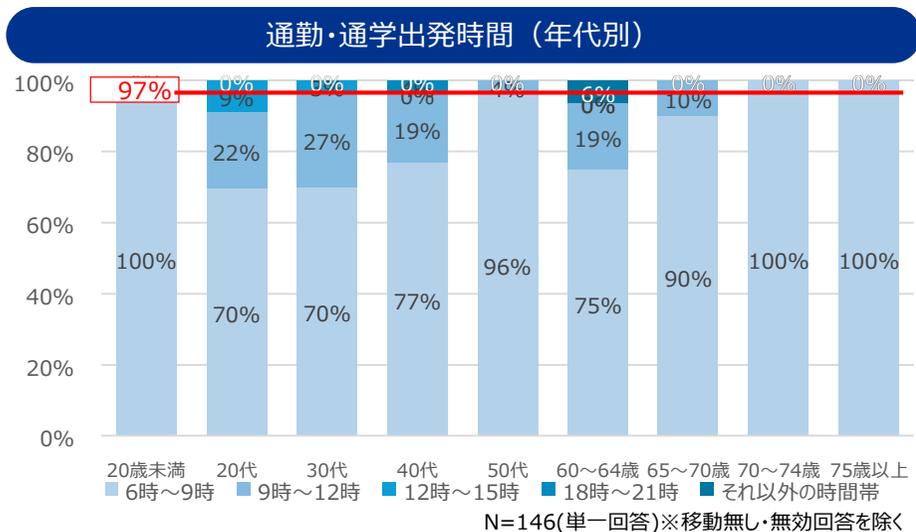
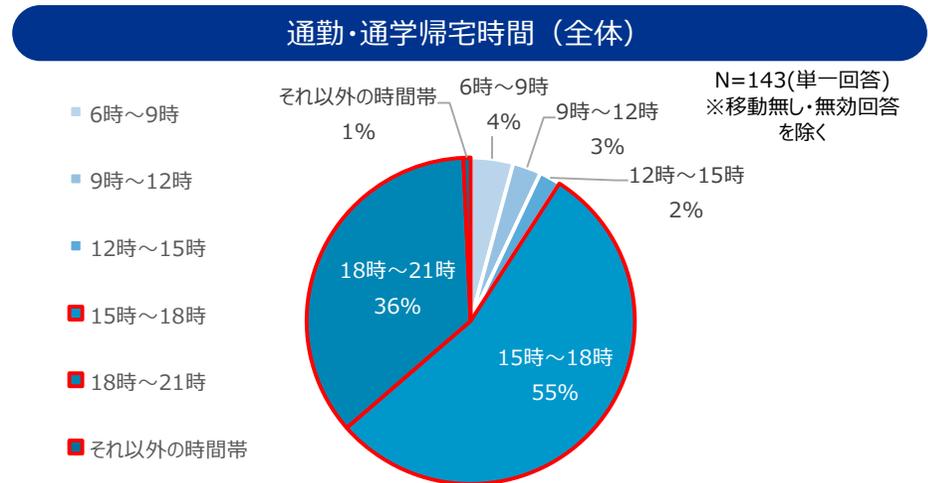
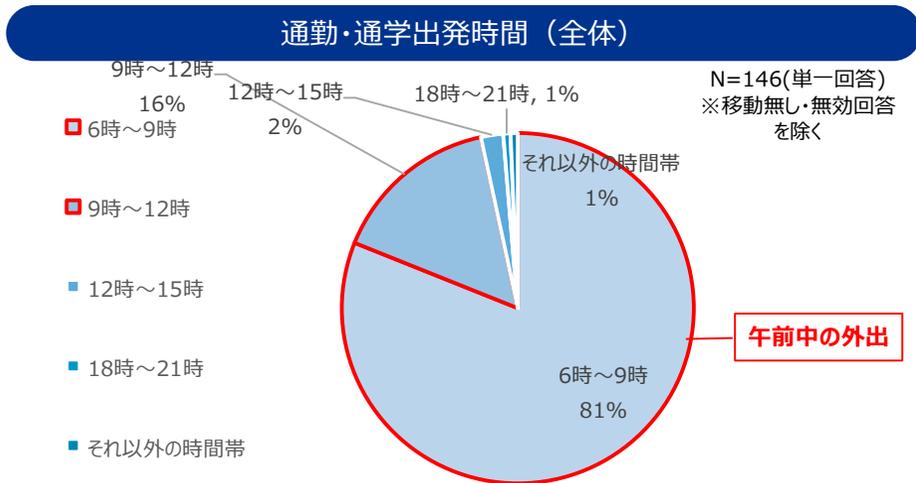


通勤・通学移動手段（年代別）



# 移動目的別の実態（通勤・通学②）

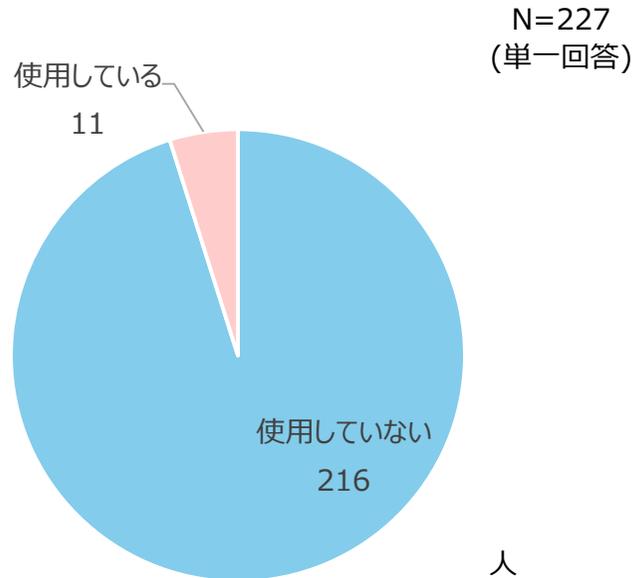
通勤・通学の出発時間について、約9割が午前中（内約8割は6時～9時）、50代、65歳以上は全員が午前中となっています。また、通勤・通学の帰宅時間について、9割は15時～21時となっており、20歳未満～30代、50代～64歳、70歳～74歳の年齢層で15時～21時までに帰宅している割合が90%を超えています。



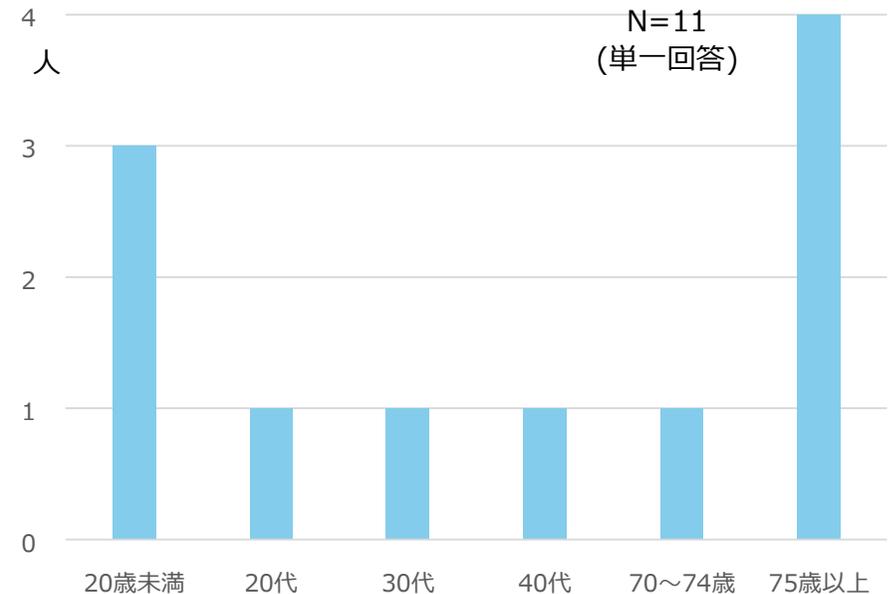
# 現状の交通手段に対する村民意見（概要）

自動車以外の交通手段を利用している人数は、アンケート回答者227名のうち11名で、その内訳は、70歳以上が5名、20代未満が3名であることが確認できました。75歳以上は、年代別回答者数に対する公共交通利用人数として多い傾向が見受けられます。

自動車以外の公共交通利用人数



公共交通利用人数（年代別）



# 現状の交通手段に対する村民意見（詳細）

現状の交通手段（路線バス、民間買い物バス、村の支援サービス）を使用している11人の運行エリア、運行頻度、運行時間についての意見を以下に示します。

## 運行エリアに関する意見

11名の回答者の中で、路線バス、民間買い物バス、村の支援サービスの拡大が必要だと思った人数はそれぞれ3名、1名、1名でした。

	路線バス	民間買い物バス	村の支援サービス
エリアの拡大が必要だと思う	3	1	1
適切だと思う	4	5	3
利用したことがない	4	5	7
総計	11	11	11

## 運行頻度に関する意見

運行頻度に関しては、路線バスおよび民間買い物バスについて、平日の運行を増やしてほしいという要望が11名中、路線バスで4名、民間買い物バスで3名からあったことがわかりました。

	路線バス	民間買い物バス	村の支援サービス
休日の運行を増やすべきだと思う	1	1	1
適切だと思う	2	3	5
平日の運行を増やすべきだと思う	4	3	0
利用したことがない	4	4	5
総計	11	11	11

## 運行時間に関する意見

- 運行時間について、3つの公共交通手段に対して「適切」と回答した割合は3割から5割程度にとどまっていました。
- 路線バスに関しては前後の時間帯を拡充してほしいという意見が4名から寄せられました。具体的には、「午前7時頃の運行」や「20時までの運行」を増やしてほしいという要望がありました。

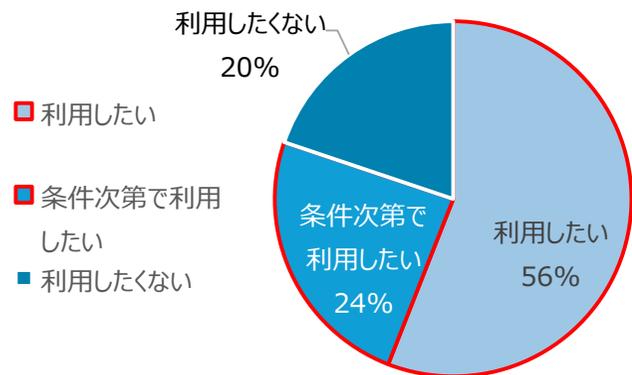
	路線バス	民間買い物バス	村の支援サービス
休日のもっと早い時間に運行すべきだと思う	1	0	0
休日のもっと遅い時間に運行すべきだと思う	1	1	1
適切だと思う	3	5	5
平日のもっと早い時間に運行すべきだと思う	1	0	0
平日のもっと遅い時間に運行すべきだと思う	1	1	0
利用したことがない	4	4	5
総計	11	11	11

# 新しい交通手段への期待（使用意向）

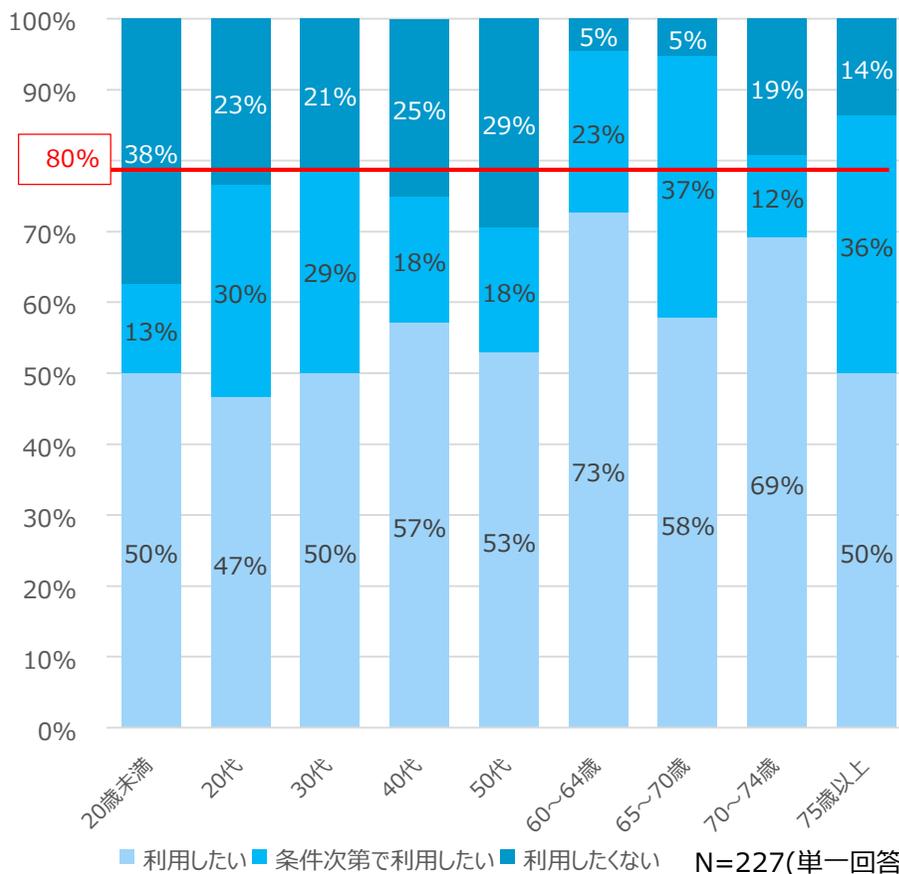
「利用したい」あるいは「条件次第で利用したい」と回答した人の割合が全体の8割に達しており、60歳以上のすべての年齢層では、この割合が8割を超えていました。条件次第で利用したい」と回答した人の、新しい交通手段を利用する具体的な希望条件として、料金と時間、場所に関する意見が多かったです。

新しい交通手段への使用意向（全体）

N=227  
(単一回答)



新しい交通手段への使用意向（年代別）



新しい交通手段への希望条件

※Word Cloudにて作成



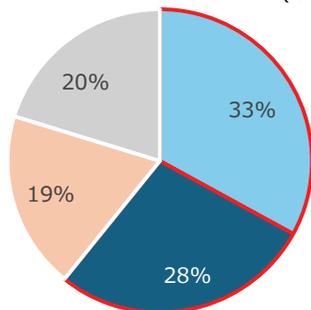
# 新しい交通手段への期待（乗車方法と希望時間帯）

新しい交通手段の乗車方法について、自宅近くから移動したいと回答した割合が計61%であり、30代、60歳～70歳、75歳以上で、この割合を超えていました。新しい交通手段の運行時間帯が10時～17時想定であることについて、全体の61%が「適切だと思う」でしたが、その前後の増便を希望する意見も約2割ありました。20歳未満、40代～50代の年代層において、「適切だと思う」と回答した割合が61%を下回っていました。

新しい交通手段への乗車方法希望（全体）

N=227  
(単一回答)

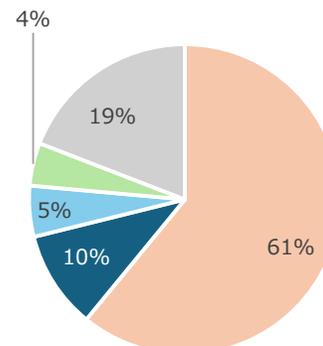
- 予約が必要だが、希望の時間に自宅近くから目的地まで移動ができる
- 最大20分程度の待ち時間があるが、出かけたいときに気軽に呼び出しができて、自宅近くから目的地近くまで移動できる
- 今の路線バスより多い1時間に1～2本のダイヤで、今のバス停と同じ場所で乗車する
- その他



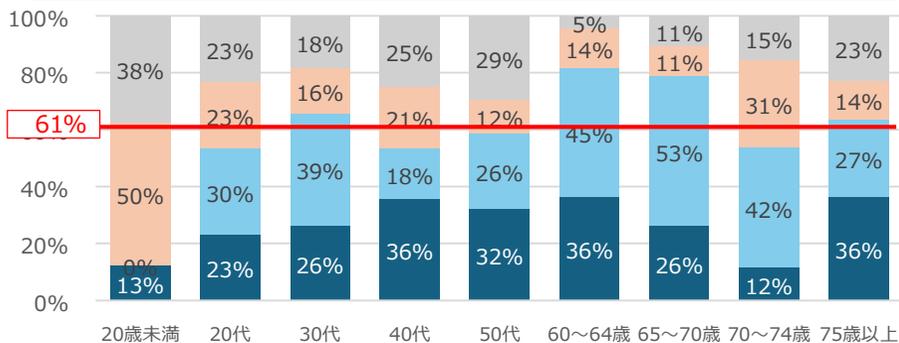
新しい交通手段への希望時間帯（全体）

N=225  
(単一回答)  
※無効回答は除く

- 適切だと思う
- 早い時間を増やしてほしい
- 遅い時間をふやしてほしい
- 早い時間も遅い時間も増やしてほしい
- その他（空欄）

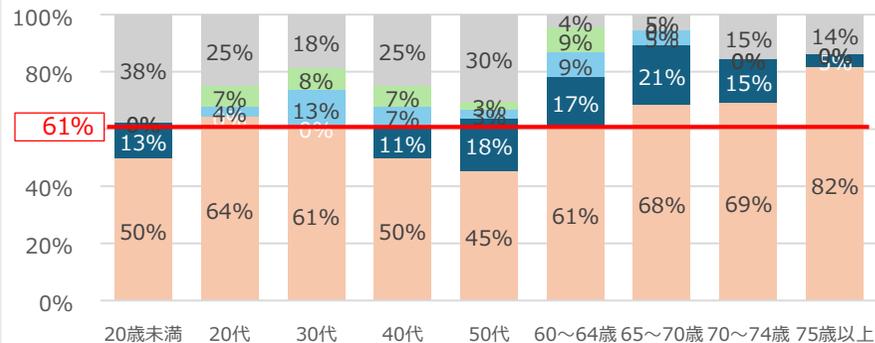


新しい交通手段への乗車方法希望（年代別）



- その他
  - 今の路線バスより多い1時間に1～2本のダイヤで、今のバス停と同じ場所で乗車する
  - 予約が必要だが、希望の時間に自宅近くから目的地まで移動ができる
- その他**  
 村内を循環する無料のバス  
 玄関から玄関
- N=227(単一回答)

新しい交通手段への希望時間帯（年代別）

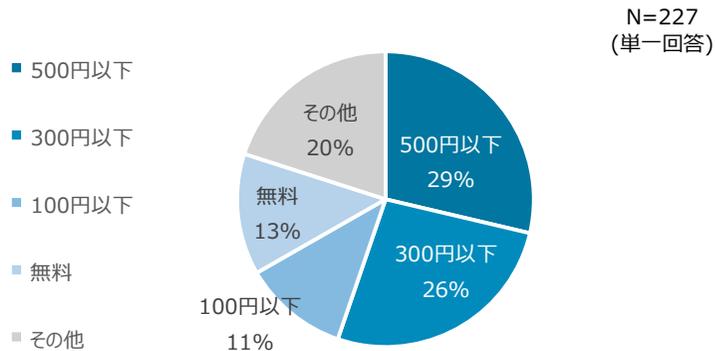


- 適切だと思う
  - 早い時間を増やしてほしい
  - 遅い時間をふやしてほしい
  - 早い時間も遅い時間も増やしてほしい
  - その他（空欄）
- N=225  
(単一回答)  
※無効回答は除く

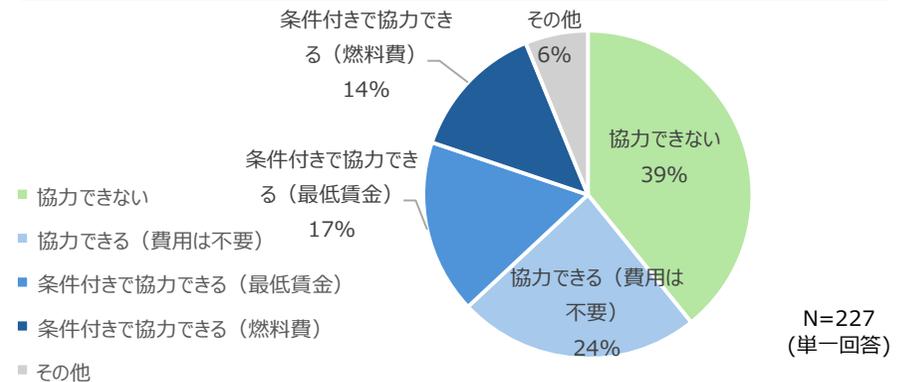
# 新しい交通手段への期待（適正料金とドライバー協力可否）

新しい交通手段の適正料金について、全体の55%が100円～500円を適正料金と考えており、65歳以上ではこの割合を上回っていました。また、「ドライバーとして協力できる」、あるいは「条件付きで協力できる」と回答した村民の割合は全体の中で合計55%であり、20代～30代、60歳～70歳ではこの割合を超えており、この層において、ドライバーの協力意欲が高いことが分かりました。

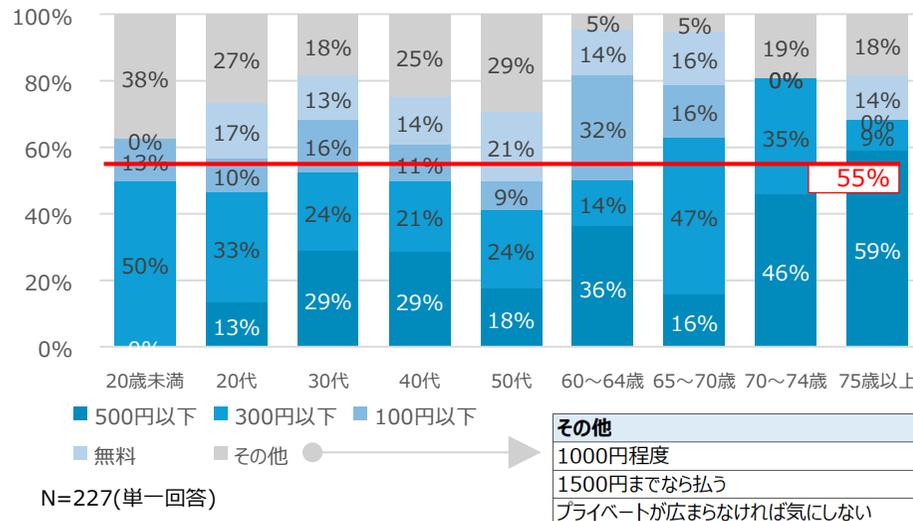
新しい交通手段の適正料金希望（全体）



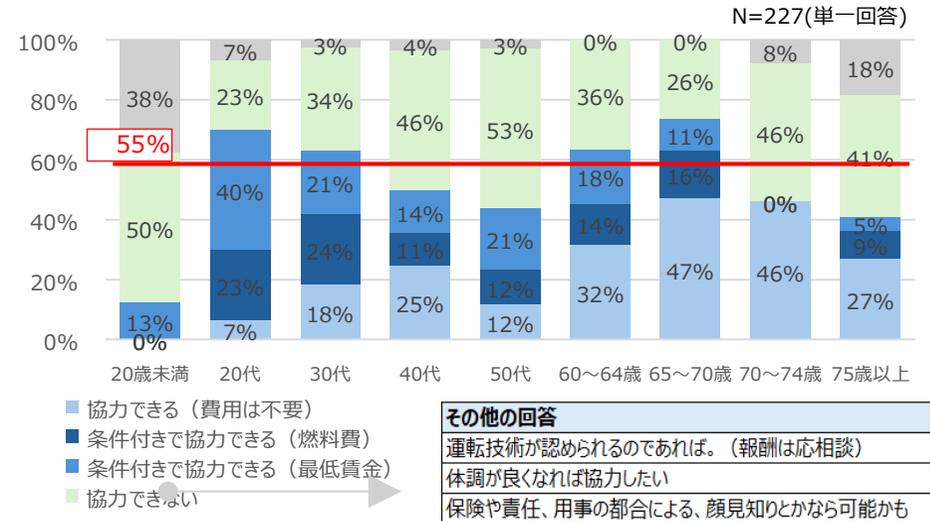
新しい交通手段へのドライバー協力可否（全体）



新しい交通手段の適正料金希望（年代別）



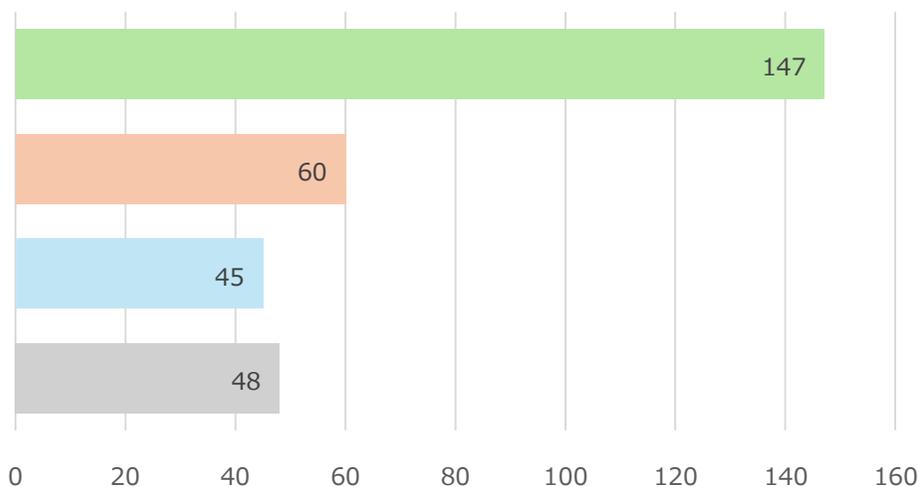
新しい交通手段へのドライバー協力可否（年代別）



# 新しい交通手段への期待（交通手段・生活関連サービスの意見）

新たに希望する手段として、「村内外をつなぐ乗合サービス」が最も多く、次に多かったのは、「村内の集会所や公民館、バス停付近に買い物設備」を設置する案でした。65歳以上において、「カーシェアリングサービス」と回答した人数が65歳未満と比較して少ないことがわかりました。

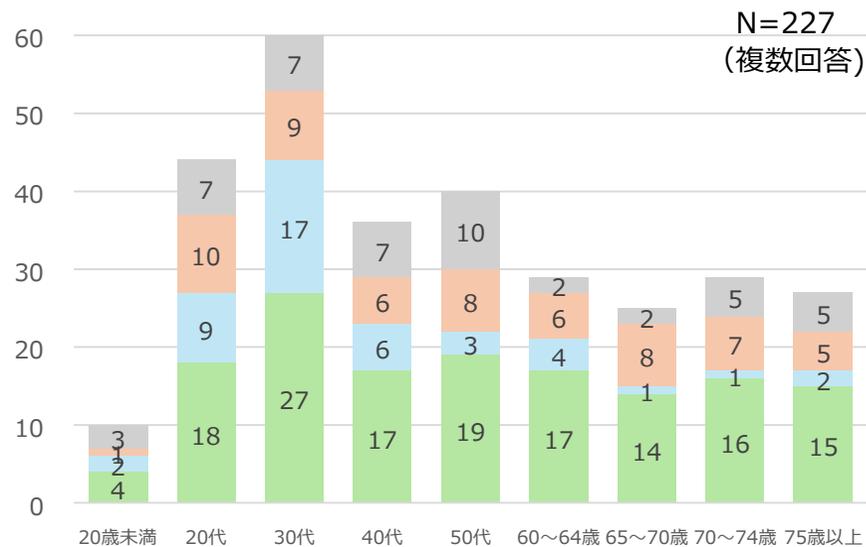
具体的な交通手段や生活関連サービスの意見（全体）



■ 系列1

N=227  
(複数回答)

具体的な交通手段や生活関連サービスの意見（年代別）



■ その他

その他
文化・教育施設
コンビニ(気軽に買い物出来る)のような場所があれば良い
自由度の高い交通手段
予約型のサービス
地域ごとに近くの集会所とかに、気軽にすぐ行けるような乗り物

■ 村内外を繋ぐ乗合サービス

## 2. 村民向け ワークショップについて

# 実施概要と当日の様子

令和7年11月26日、地域交流センターゆるるんで村民の方24名の方を対象に、公共交通および交流拠点に関する検討の一環として、村民向けワークショップを実施いたしました。

## ワークショップ実施概要



**ひらめきをカタチにする！  
交通アイデアのワークショップ**

2025年11月26日  
【主催】東成瀬村地域公共交通活性化協議会  
【場所】地域交流センターゆるるん

	予定	時間	進行内容
1	オープニング	10:00-10:10	① はじめに ② 講師のご紹介 ③ 本日の流れ説明
2	東成瀬村 地域公共交通計画（案） について	10:10-10:50	① これまでの振り返り ② 様々な施策案について ③ 質疑応答
3	『セッション その1』 村の交流と拠点を考えよう	10:50-11:10	① 各集落の交流拠点サービスを考えよう ② 典型的な人物像を想定してくらしのリズムを考えよう
4	『セッション その2』 公共交通の在り方を考えよう	11:10-11:35	① 必要な公共交通サービスを考えよう ② 公共交通サービスへの関わり方を考えよう
5	本日のまとめ	11:35-12:00	① グループ発表 ② 講師総括 ③ 閉会

## 当日の様子



# ワークショップ結果 (サマリ)

## 参加者概要

参加者属性	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域公共交通活性化協議会構成員</li> <li>商業事業者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>村議員</li> <li>地域おこし協力隊</li> </ul>	参加者数	24名
-------	--	---	------	-----

## 各セッションで出た意見の概要

セッション① 村の交流と拠点を考えよう ~どんな交流が生まれると良いでしょうか?~	村民	同年代内	未就学児	<ul style="list-style-type: none"> <li>駄菓子屋</li> <li>プレイルーム (ボールプール)</li> </ul>
			小中学生	<ul style="list-style-type: none"> <li>駄菓子屋</li> <li>友達と一緒に自由に集まってゲームができる場</li> <li>集まって宿題などを教えあえたり、自習に使える場所</li> </ul>
			働く世代	<ul style="list-style-type: none"> <li>飲食店 (居酒屋、ファミレス)</li> <li>子どもを遊ばせられる場</li> <li>夕方から夜にかけて軽く飲食できる場所</li> </ul>
		高齢者	<ul style="list-style-type: none"> <li>飲食店 (居酒屋、ファミレス)</li> <li>子どもを遊ばせられる場</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気軽に集まるお茶のみ場</li> <li>読書ができる場所 (漫画含む)</li> </ul>
		世代間	<ul style="list-style-type: none"> <li>道の駅 (直売所 等)</li> <li>田んぼでスノーモービル</li> <li>キャンプ体験 (熊のいない)</li> <li>スマホショップ</li> <li>おしゃべりの集まり・演奏と唄い</li> <li>昔の遊びを高齢者が小学生に伝える場</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>働く世代と高齢者も含めた飲み場</li> <li>山菜を取った人と物々交換できる場</li> <li>名物料理創作する会</li> <li>未就学児の登園時の待合場所に親も集まる場所</li> </ul>
		社会全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>自炊イベント (村内で、原材料提供、露天)</li> <li>室内で日光浴のできるカフェ (お茶、ケーキが提供できるのが一番良い)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光地とホテルの情報</li> <li>村留学や山菜のPR</li> </ul>
	来訪者	同行者、来訪者間	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポルシェまつり (車好きイベント)</li> <li>観光バス (村全貌) 観光地とホテルの情報</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キッチンカーまつり</li> <li>WEEDと絡めた犬体験の場</li> </ul>

# ワークショップ結果 (サマリ)

## 各セッションで出た意見の概要

セッション① 村の交流と拠点を考えよう ～交流の場となる拠点の役割とは？～	田子内	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ レンタルサイクル拠点 (乗り捨て可能な方式)</li> <li>・ トウトウトク乗り場</li> <li>・ 電動キックボード、電動カート (屋根付き) 拠点</li> </ul>	
	岩井川	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゆるるん付近：移動本屋 (の拠点)</li> <li>・ 東村付近：飲食店 (ジビエ焼き肉屋)</li> <li>・ 東仙歩付近：飲食店 (天ぷら屋、寿司屋 等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 村外から村内：移動アイス屋、カフェ</li> <li>・ 手市から：海産物、乳製品 (週替わりでなまもの)</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理容・呉服などファッション関係がまとまった施設 (村内)</li> <li>・ コンビニ・ATM</li> <li>・ 成瀬川を利用した遊び、イベント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 育児に関する情報共有の場</li> <li>・ 小中高生が集まって勉強を教えあえる場所</li> <li>・ 飲食ができる交流場所</li> </ul>
椿川	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昔の遊びを伝える、山菜の物々交換は成瀬川交流館のような大柳地区で</li> <li>・ WEEDの体験はプランで</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 未就学児、ビジネス交流、飲み会 (マージャン卓) はまるごと自然館で</li> <li>・ お茶交流は椿川地区全体4カ所など小さな拠点で</li> </ul>	
セッション② 公共交通の在り方を考えよう ～必要な公共交通サービスを考えよう～	田子内	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運動が可能な年代についてはレンタルサイクルや電動キックボードが有力候補となる</li> <li>・ 一方で自転車や電動キックボードなどの利用が厳しい高齢者等はある程度集落の内部の細かい部分まで入れる交通 (トウトウトクや電動カート等) の整備が必要</li> <li>・ 交流館同士を繋ぐ子どもが安心して使える交通方法も必要 (バス?)</li> </ul>	
	岩井川	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 岩井川内周遊の循環バスもしくはミニバン</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1時間に1本、岩井川⇄田子内 (役場付近) への路線バスあるいはライドシェア</li> <li>・ 停留所は岩井川内に4か所程度設けたうえで、事前予約することで各戸の前まで寄り道対応する</li> </ul>		
椿川	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 拠点は椿川地区縦に4カ所</li> <li>・ その拠点には近所で乗り合い (予約あり) で移動して、拠点からはライドシェア (8:00～15:00運行)</li> <li>・ 予約は電話でAI音声でも可</li> </ul>		

# グループワーク成果イメージ

地図プロット



凡例

オレンジ	全年代
黄色	子供
青	大人
紫	乗り物

セッション①-1 村の交流と拠点を考えよう ～どんな交流が生まれると良いでしょうか？～

	村民				来訪者
	未就学児	小中高生	働く世代	高齢者	
同年代内	<ul style="list-style-type: none"> <li>洋服（子ども服）</li> <li>プレイルーム（ボールプールなど）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>駄菓子屋</li> <li>ケーキ屋</li> <li>学童クラブ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カーショップ</li> <li>雑誌</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品売り場</li> <li>レストラン</li> </ul>	<b>同行者、来訪者間</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ボルシェまつり（車好きイベント）</li> <li>観光バス（村全貌）</li> <li>民泊</li> <li>名建築</li> <li>キッチンカーまつり</li> </ul>
世代間	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャンプ体験（熊のいない）</li> <li>靴屋</li> <li>寺子屋</li> <li>ピアノ教室</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ用品</li> <li>ラーメン屋</li> <li>スマホショップ</li> <li>おしゃべりの集まり・演奏と唄い</li> </ul>		
村内外全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>海産物</li> <li>へしこ（福井県産）</li> <li>乳製品、自炊イベント（村内で、原材料提供、露天）</li> <li>室内で日光浴のできるカフェ（お茶、ケーキが提供できるのが一番良い）</li> </ul>				

セッション①-2 村の交流と拠点を考えよう ～交流の場となる拠点の役割とは？～

- ゆるるん付近：駄菓子屋、移動木屋（の拠点）、児童館・図書館、カーショップ、スポーツ用品、キャンプ用品、スマホショップ、食品（日用的なもの）
- 東村付近：焼き肉屋（ジビエ料理）、ラーメン屋、ケーキ屋、日光浴できるカフェ
- 東仙歩付近：天ぷら、すし屋（寿司屋）
- 野尻、入道付近：食品、日用品、駄菓子屋、児童館・図書館、スポーツ施設（卓球・バドミントンなど）
- 村外から村内を移動：移動アイス屋、カフェ屋
- 横手市から：海産物、乳製品（週替わりでなまもの）

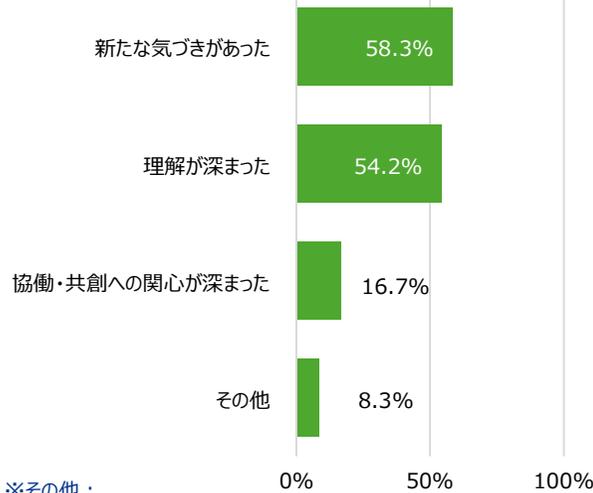
セッション② 公共交通の在り方を考えよう ～必要な公共交通サービスを考えよう～

- 循環バス（ミニバン？）（岩井川内周遊）→実現した店舗の数で頻度が決まる
- 拠点間で連絡とれれば定期交通は不要？

# アンケート結果

## 交通への興味関心

N=24(複数回答)

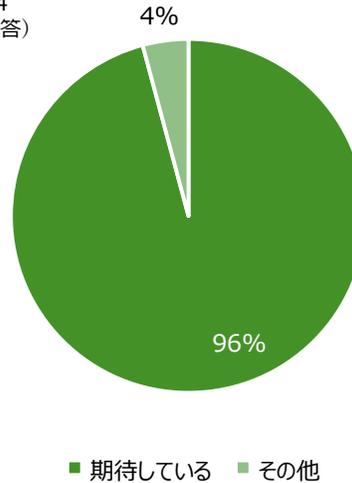


※その他：

- ・ 現状が変わる期待がある
- ・ 交通の手前の拠点の考え方を初めて知れた

## 交通への期待度

N=24  
(単一回答)

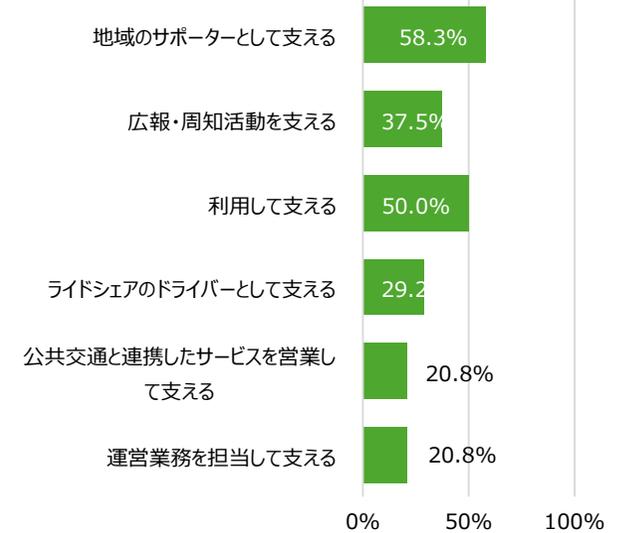


■ 期待している ■ その他

※その他：期待するが時間がかかると思う

## 共創・協働への意向

N=24(複数回答)



## 自由意見

- ・ コミュニティーセンターがあればよい。
- ・ 村民の参加率を高め、意見を集めて欲しい。
- ・ 基幹がもう少し欲しい。横手での買い物も自家用車がないと厳しい。
- ・ 歩行者の方々も年代もいろいろな方がいることを前提に、より住みやすい、移住しやすい村になっていくことが大事。1つの意見に縛られないことが大事と感じた。
- ・ 必要な時に必要なものがあれば良いのでは。定期的なものでなくても良いのかなと思いました。
- ・ 具体的な公共交通の実践方法を計画してください。現在よりも数年先を見通した計画でありたい。
- ・ 物（ネット、電話、注文）が村に来ることが交通方法の増加が一番早いと思う。
- ・ ライドシェア、カーシェアの「気遣い」をどう取り入れるか。リスク、事故や公用車でどこまで行っているのかの取り決めが課題と感じた。
- ・ バスをもっと欲しい。

3.  
住民アンケート  
および  
ワークショップ  
結果総括

# 結果総括

住民アンケート調査とワークショップを通じて、村内の身近な場所で生活サービス等の提供の充実化を図りながら、この場所を交通結節点としても有効活用し、既存の交通サービスに加えて自宅近くから気軽に使える新しい移動手段を導入することで、自動車での移動が難しい方も安全安心に暮らせる村づくりにつなげたいという住民意識を把握することができました。

この結果から、住民から期待される交通体系の総括として、以下の3つの要点にまとめています。

- ① **自動車を利用できない方の移動手段として、今ある各種の交通サービスを継続しながら、これらを有効活用できるように、連携と役割分担を図っていく。**
- ② **今ある手段では埋められない交通空白は、新しい交通手段を導入しながら、既存の手段と連携・協調・分担することで効率化を図り、交通体系全体の持続性を高めていく。**
- ③ **これらの交通手段は、村内の各エリアにある拠点交通結節点として活用するなどして円滑に連携・協調して運行しながら、これらの拠点では村内に不足する生活サービスと、住民が気軽に集える“場”を提供することで、生活サービスへのアクセス性を改善するとともにコミュニティの活性化を図る。**